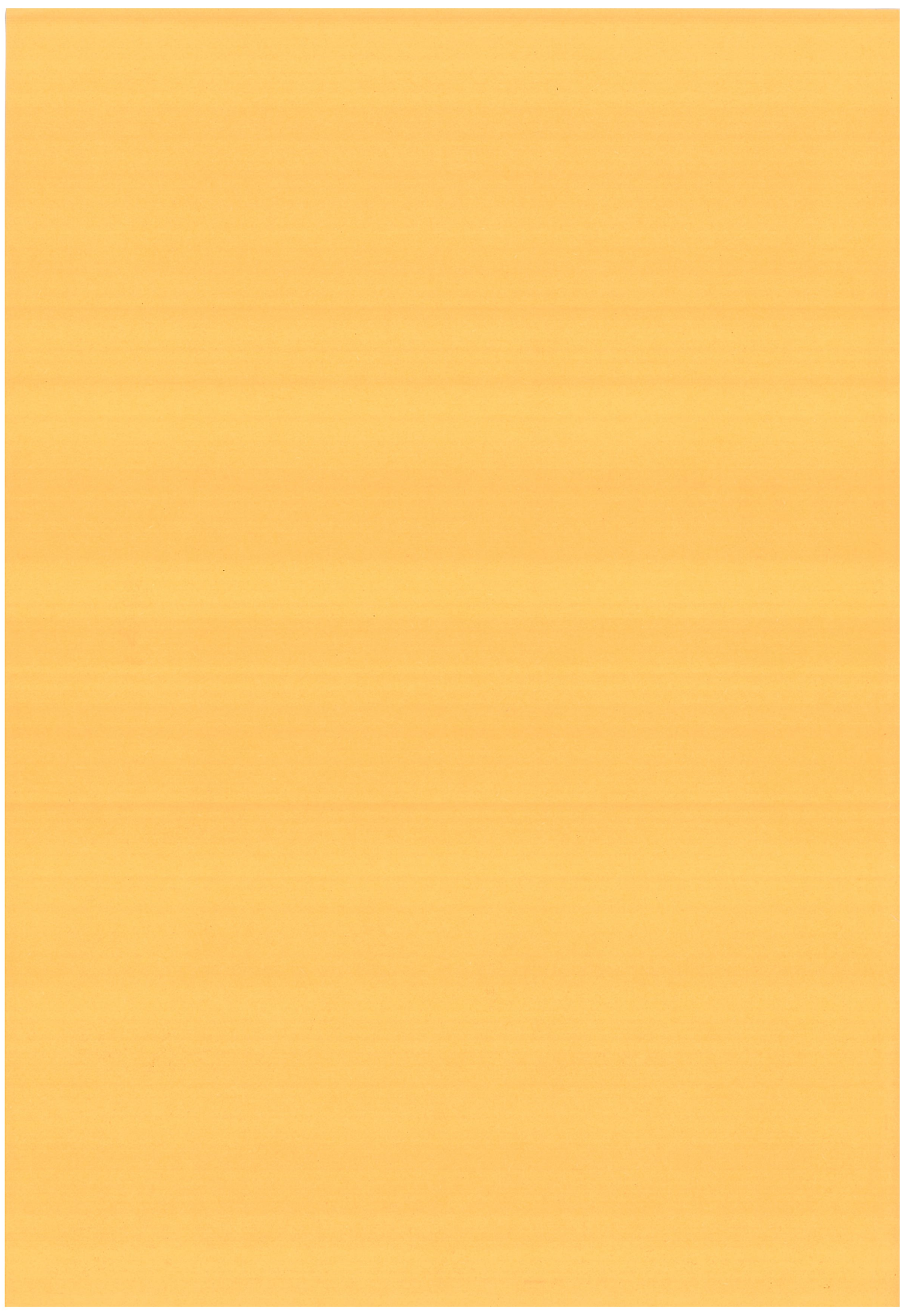


独立行政法人福祉医療機構 地域連携活動支援事業 報告書

2016 ~ひとり暮らしと 熊本地震被災への支援~





目次

- P.2 ごあいさつ
- P.3 発刊に寄せて
- P.4 2016年度の歩み
- P.6 おしゃべり会(文化交流事業)【くまもと・わくわく基金】
- P.7 訪問相談事業【地域連携活動支援事業】
- P.8 ささえ愛サービス【グリーンコープ助成事業】
- P.9 熊本地震被災者支援【地域連携活動支援事業】
- ・お茶碗プロジェクト
 - ・被災者移送支援活動
 - ・被災者アンケート集計と結果
- P.15 相談支援センター【地域連携活動支援事業】
- P.19 連携委員会【地域連携活動支援事業】
- P.23 交流と居場所づくり【地域連携活動支援事業】
- ・富山型デイサービス訪問
 - ・『でんでん虫の家』事業
- P.29 伴走型支援士の養成【地域連携活動支援事業】
- P.33 ひとりひとりの居場所がある 楽しいまちづくり
【地域連携活動支援事業】
- ・活動報告会&先進事例紹介講演会
- P.37 資料集

ごあいさつ

WAM(独立行政法人福祉医療機構)様の助成金を賜りまして、当会の活動が出来ました事を心より感謝申し上げます。

<熊本地震被災者支援>としまして、損壊家屋の応急処置や被災所に6710箱のお茶碗をお届けするお手伝いをさせて頂きました。夏の炎天下の元、大変な時も有りましたが、被災者の皆さまに喜んで頂けまして感謝の時を過ごさせて頂きました。

<交流と居場所づくり>で、富山型デイサービスの視察にまいりましてこれからの当会の歩みに沢山の導きを頂き感謝の学びの時でございました。

又、学習会としまして、趣味を生かした<ヨガの体験、手作りの葉書作り、カラオケ、ボウリング>などが行われ、それぞれの特性が見いだされ、良き学びと親睦の会となりました事を感謝申し上げます。

<連携委員会の実施>は、各分野の方々(大学教授、YMCA、市社協、支援包括センター、ふくし生協、防災士協会、子ども食堂、よか隊ネット、ヒューマンネットワーク熊本、グリーンコープ)に出席頂き、当会のこれからの運営に貴重な道しるべを与えて頂きました事を心よりお礼申し上げます。

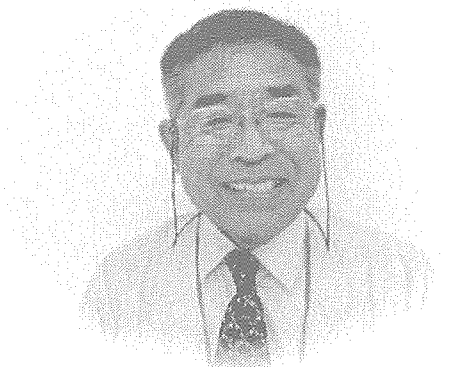
12月には<伴走型市民ボランティア養成講座>を開催しまして、素晴らしい講師の方々のご指導を賜り21名の受講生の方々と共に<色々な生活困窮者の方々に寄り添うあり方>を学ぶ、貴重な時を与えて頂きまして感謝申し上げます。

2月には<愛と支え合いですばらしい活動をされておられます大阪北芝の皆さまに<ひとりひとりの居場所がある 楽しいまちづくり>講演会をさせて頂きまして、その歩みとお話に皆な感動を頂き感謝いたしました。

当会への相談も様々な所から(保護課、医療機関、地域包括支援センターなど)増えてまいりまして、今の社会に必要な資源(働き)のように思っております。

このようにして、でんでん虫の会の活動や社会に対する働きが出来ます事は、WAM様の助成のお陰でございますことを心より感謝申し上げます。

NPO法人でんでん虫の会 代表
船本 満幸



発刊に寄せて

2016(平成28)年4月、熊本では震度7クラスの地震が二夜連続起こり、いまだ復興への道半ばの状況にあります。今回の熊本地震では、あらためて地域のつながりの重要性が指摘されました。熊本地震以降、NPO法人でんでん虫の会では精力的に被災支援活動を行いながら、並走して一人暮らしの居場所づくりに取り組んできました。

一方、政策的動向に目を向けると2000年以降、「自助・共助・公助」といった言葉のレトリックで説明される「地域包括ケアシステム」が叫ばれるようになり、最近では「地域共生社会」の実現に向けた具体的方策が検討されています(平成29年2月7日 厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部)。これら一連の動きの背景には、増大するわが国の社会保障給付費に何とか歯止めをかけたい政府の思惑が見え隠れします。

このような社会的状況のなかで、今後ますます地域のチカラが試される時代になると予想されます。近年、全国的に事業型NPO法人が多数を占めるなか、でんでん虫の会は現在まで住民ひとりひとりに寄り添った伴走型支援を展開しています。特に今年度は活動助成金を得て、さまざまな支援が重層的に実施されてきました。

この報告書ではこの1年間、でんでん虫の会が行ってきた幅広い活動内容が盛り込まれています。どの活動においても、お互いが支え・支えあう関係性の大事さが柱となっています。これからご覧いただく報告書には、でんでん虫の会に携わる人々の熱い思いが凝縮されています。手にとって最後までお読みいただいた方はぜひとも当会へのご支援をいただくとともに、今後さらに地域に根差す活動とするために、私たちの仲間のひとりとして手を差し伸べてくだされば、これ以上の幸せはありません。

格差社会、分断社会といわれるこの時代に、でんでん虫の会の存在は今後ますます大きなものになっていくことでしょう。

NPO法人でんでん虫の会理事・尚絅大学短期大学部准教授
川崎 孝明



2016年度事業報告①

訪問・相談支援事業

- 4月15日 安否確認の電話
 - 4月16日 避難所等訪問(ペットボトル配布)
 - 4月17日 電話連絡、訪問
 - 4月18日 熊本大震災支援民間ネットワーク/ところをつなぐ「よか隊ネット」発足
 - 4月19日 おにぎりとみそ汁づくり、避難所への配達訪問
 - 4月20日 おしゃべり会実施、支援物資配布(ウェルパルロビー)
- 生活相談 おしゃべり会来場者(毎週水曜日、毎回3～4名からの相談)、
電話相談(セーフティネットサービス、関係団体からの相談)
訪問(会員宅相互見守り訪問)、

就労・生活支援事業

- 4月21日 熊本地震に伴う住居情報収集、危険住宅の片付と転居先確保^W
 - 4月22日 転居支援開始(アパート探し、身元引受人、保証人)^W
お茶碗プロジェクト主催者受入、避難所同行
- お茶碗プロジェクト(全国から寄せられた6,710箱の受入・配布)^W
支援物資倉庫管理、^G
病院同行・見舞い(救急搬送時の対応、入院時保証人、身元引受人)
生活保護申請等同行、財産管理(任意代理契約)、
引越荷物運びの手伝い、逝去後の見送り、遺品整理、部屋片づけ

交流・文化支援事業他

おしゃべり会 年間全47回 延べ人数1,081名 平均23名

4月2回のみあいぼーとで実施 地震以降 ウェルパルロビー、ルーテル大江教会、草葉町教会、上通YMCAにて実施^わ

交流・文化事業

- 4月29日 メーデー参加を予定していたが地震のため中止(グランメッセは大規模避難所)
- 5月21日 バーベキュー食事会(石神山公園:27名)^わ
- 7月30日 食事交流会(草葉町教会20名)^わ
- 9月28日 趣味活動学習会「ヨガ」講師:和こころ茶ヨガインストラクター小堀美穂子先生:23名^わ
- 10月 1日 食事交流会(草葉町教会:18名)
- 10月25日 秋の小旅行 五家荘:23名 ^わ

2016年度事業報告②

- 11月 1日 趣味活動学習会「カラオケ」
講師:スタジオ・エツフェル主宰者上田先生:15名^わ
- 12月 4日 趣味活動発表会(喫茶飛鳥) 27名^わ
- 12月14日 趣味活動学習会「絵手紙」講師:大和武史先生:22名^わ
- 1月 7日 新年交流食事会 餅つき(YMCA)27名^わ
- 1月27日 趣味活動学習会「ボウリング」講師:仮水勝司先生(スポラ)15名^わ

その他

- 4月18日「熊本地震」緊急支援プロジェクト会議が開かれ、「よか隊ネット」発足。
- 6月 3日 理事会(総会へ向けて)
- 6月11日 「地震体験・語り愛会」地震を振り返り、不安な気持ち等を出し合う。
コーディネーター川崎孝明先生
終了後、通常総会開催、会場尚絅大学
出席34名、委任状39名 合計73名 ^わ
- 7月21日 熊本YMCA学院 講義「生活困窮者支援について」年間3回
- 9月21日 新たな居場所づくりのための連携委員会(第1回)^W
- 10月18日 新たな居場所づくりのための連携委員会(第2回)^W
- 11月14日 新たな居場所づくりのための連携委員会(第3回)^W
- 12月 1日～新たな居場所「でんでん虫の家」として田中ビルを借用開始^W
- 12月 6日 県立大学での特別講話「生活困窮と孤立を防ぐには」 学生200名
- 12月21日～22日 伴走型支援市民ボランティア養成講座実施 受講生21名^W
- 1月～3月 伴走型支援市民ボランティア養成講座受講生へのフォローアップ^W
- 2月11日 「ひとりひとりの居場所がある楽しいまちづくり」講演会・ワークショップ
(尚絅大学ホール:50名)ネットワーク北芝^W

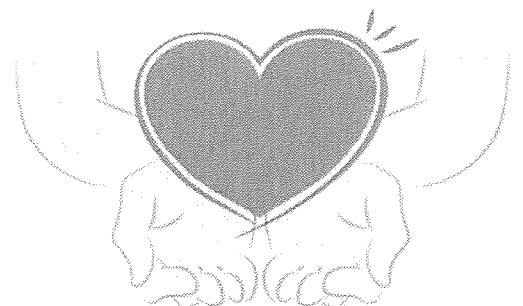
毎月1回以上 スタッフ会実施

^W:独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

^わ:わくわく基金(熊本市市民公益活動支援助成金)

^G:グリーンコープ福祉活動組合員基金

※2014年度・2015年度は、資料集P.38～40に掲載



おしゃべり会(文化・交流事業)

年度初めの4月熊本にとって、大変な災害が起きました。それも続けて2回も、あれから一年近くになります。その中で県民の皆様方は復興に尽力されています。

私達、でんでん虫の会の会員さんも、大・小の被害を受けました。

私も地震直後、40名くらいの会員に電話をさせていただきました。避難をされた方もたくさんおいででしたが、身体の方は元気で安心しました。

そんな中、2回目の地震から4日後の20日(水)におしゃべり会を開きました。

いつも利用していた会場の『熊本市市民活動支援センター・あいぽーと』は、地震の影響により使えないとの事でしたが、1階のフロアをお願いしてお借りしました。

約20名近くの方が参加していただきました。大きな地震で被災している中、集まって大変、嬉しかったです。

その後、教会(大江、草葉町)をお借りして、現在上通りのYMCAにて続けさせて頂いています。少々狭くは感じますが、いつも25名以上の参加があります。

交流会も、カラオケやボーリング、BBQ、食事会、日帰り旅行、忘年会、新年会などで、会員と集い心の交流を深め、ささえ愛をしています。

交流会を通じて、いつも想う事ですが前から参加している人も、新しく会員になられ参加をいただいた方も自然に交流がなされています。

色々企画をしていく中で、会員の皆さんが、いつも協力的で少々の不満が有っても顔に出さず参加してくれます。私にとって何よりの感謝です。

次年度も、私が出来る事は会員の皆さんの協力を得ながらやっていこうと思います。

(山本照文)

平成28年度交流会

5月21日(土) BBQ(石神山公園) 27名参加

7月30日(土) 食事会(カレー) 草葉町教会 20名参加

9月28日(水) 笑いヨガ YMCA 23名参加

10月 1日(土) 食事会(酢豚) 草葉町教会 18名参加

20日(木) 日帰り旅行 五家荘 23名参加

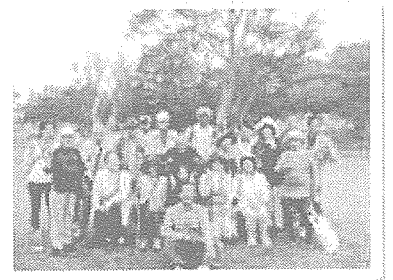
11月 1日(火) カラオケ 15名参加

12月 3日(土) 忘年会 喫茶飛鳥 27名参加

12月14日(水) 絵手紙 草葉町教会 22名参加

1月 7日(土) 新年会 YMCA 27名参加

1月27日(金) ボーリング スポラ 15名参加



上: 日帰り旅行にて



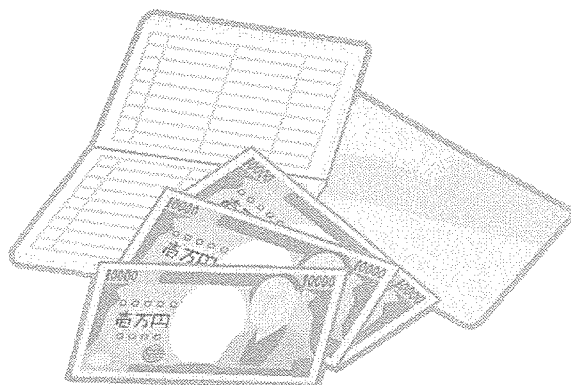
左: ボーリング会開催

訪問相談事業・生活支援事業

セーフティネットサービスの実施

- ①目的：福祉や医療には多くの制度とサービスがあるが、ニーズは多様化しており、公助だけに頼ることは安心安全な生活を送るには不十分である。特に身寄りのないひとり暮らしの人々にとっては、「お互いさま(共助)」を基本にした会員(市民)相互の支援を進めながら精神的な支援が必要である。「でんでん虫の会」では、これまでも新たなセーフティネットづくりを進めてきたが、熊本地震を経て、ますます関係機関から問い合わせがふえ、必要性が増している。
- ②実施した内容：アパート入居の際の不動産紹介(身元引受人)、入院や手術手続き(保証人)、病気の方の見舞いや通院同行、逝去後の諸整理とお見送り、生活費の管理・物資調達のお手伝い、生活保護申請同行、行政・医療機関・他の支援団体との連絡・連携、ワンコインサービス、被災者救援活動、その他生活相談全般
- ③実施日(期間)：2016年4月～2017年3月
- ④相談件数：毎日(一日平均5件、週30件、新規相談件数/月平均15件)
- ⑤実施場所：相談支援センター、各医療機関、行政機関
- ⑥対象者：でんでん虫の会会員及び一般市民
- ⑦スタッフ構成：相談員3名
- ⑧連携団体の役割：
医療ソーシャルワーカー協会(医療支援)、地域包括支援センター(要支援高齢者支援)、社会福祉士会(相談支援、成年後見)、司法書士会(成年後見)、連合熊本ライフサポートセンター(労働者の相談支援)、日本防災士会熊本県支部(防災支援)、熊本学園大学・尚絅大学・YMCA学院(ひとり暮らしの居宅訪問調査)
- ⑨広報：相談支援案内リーフレット配布、ケア会議等での活動内容説明、会員及び関係機関からの口コミ

(吉松裕藏)



ささえ愛サービス(旧ワンコインサービス)

2016年度、でんでん虫の会は、自分だけでは解決出来ない日常の困りごとをお互いに支え合うために「ワンコインサービス」に取り組んで参りました。

例えば、こんなことを行いました。

「足腰が弱って一人での買い物が大変！」→お買い物に同行します。

「手料理にチャレンジしたいけど一人だと不安」→自宅に訪問して一緒にお料理します。

「部屋に電灯が無く暗い、付け方が分からない。」→手先の器用な会員さんが設置！

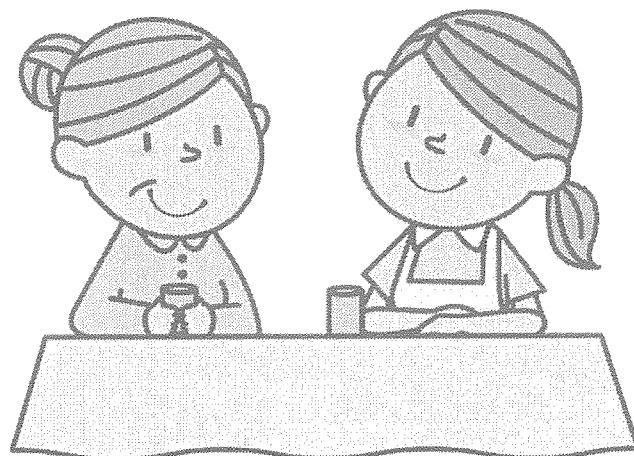
「みなし仮設を探しているけど、なかなか家が見つからない」

→不動産会社に連絡、物件が見つかったら見学に同行します。みなし仮設に入居する際に必要な手続きも一緒に行います。

今年の特徴としては、今まで暮らしていた家が地震の影響で暮らせなくなってしまった方のみなし仮設や新しい住まいを探すお手伝いの依頼や、それにともなう引越しや各種手続きの依頼がとて多かった事が挙げられます。家がなかなか見つからない不安や、高額な引越し費用、壊れた家具や家電の買い替え等、様々な不自由や不安の中サービスを利用した方からは「ようやく落ち着く事ができそうです」「手伝って頂きとても助かりました」と言った安堵の声が聞かれました。

この「ささえ愛サービス」は、以前は「ワンコインサービス」という名前で会員の皆さんの困りごとを会員さん同士で助け合う仕組みとして存在していました。ですが、「ワンコインサービス」と言う名前だと、本来の目的である「会員同士の支え合い」から行われているサービスである事が伝わりづらいのではないかとスタッフや会員さんらの意見もあり、これからは「ささえ愛サービス」に名前を変更する事にしました。それに伴い、ささえ愛サービスを会員さん同士でスムーズに行っていけるように改めてサービスを見直しました。その結果、『ささえ愛サービス』の決まりが出来上がりました。今後はこの決まりをサービスに関わる会員さんらを中心に共有していく事とします。(資料集P.41参照)

(谷川優紀)



熊本地震被災者支援



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

被災者支援

熊本地震被災者支援

①目的:

熊本地震で被災したひとり暮らしの方たちの不安を和らげ、孤立を防ぐことができた。

②実施した内容:

安否確認(電話、訪問)、炊き出し(配布)、居室及び避難所の片付
転居先物件の確保と紹介、引越しの手伝い、被災家屋の応急処置
お茶碗プロジェクト(全国から寄贈された茶碗を、仮設住宅などへ6700箱を配布)
介助が必要な方の移送を支援した。

③実施期間:

安否確認・炊き出し:2016年4月15日～4月20日

お茶碗プロジェクト:2016年5月28日～10月18日※詳細は資料集P.44をご参照下さい。

被災家屋の応急処置:2016年5月3日～6月28日

④実施回数:毎日

⑤実施場所:

相談支援センター(熊本地震被災者支援センター)、お茶碗集積所(賃借)熊本
ルーテル大江教会、熊本草葉町教会、上通YMCA(あいぽーと震災被害の為)

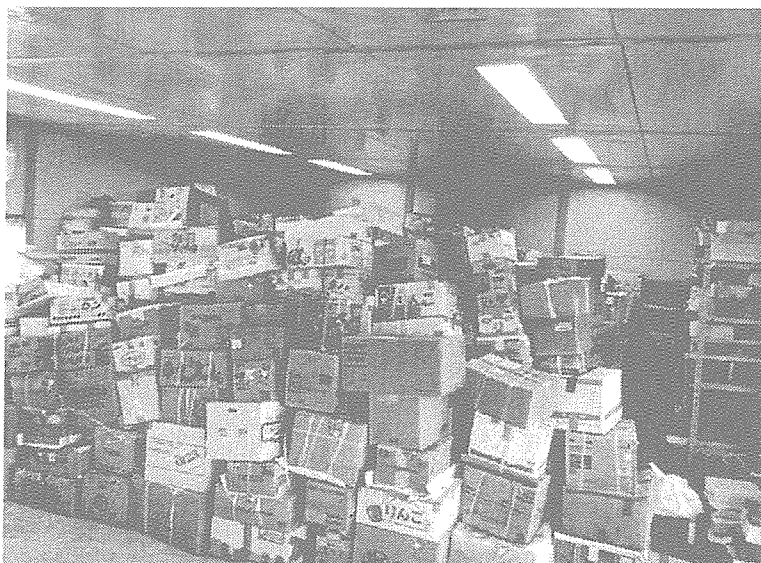
⑥対象者・数:

被災会員100名とその知人、近隣地域の方々30名、
仮設住宅及びみなし仮設住宅入居者

⑦スタッフ構成:相談支援スタッフ3名(相談、調整)、ボランティアスタッフ10名

⑧連携団体の役割:

支援活動への助言をいただき、ネットワークを広げ、支援活動をサポートいただいた。また、会員以外の被災された一般市民へ情報を提供していただき、連携を図ることができた。



(吉松裕藏)

全国より集まった
食器が入った段ボール

お茶碗プロジェクト

神戸のひまわりおじさん(荒井さん)を中心に、あらよあらよと言う間に全国から送られてきたお茶碗段ボールの山、山、山！こんなに広範囲でたくさんの方々に活動と呼び掛ける準備は並大抵のことではないと思われませんが、当の荒井さんは鼻歌を歌いながら何でも無いことのように振る舞われるのですから、すごい方がいらっしゃるものです。

引き受けたでんでん虫の会の臨機応変&適応能力の高さにも感心が止まらないまま活動への参加となりました。個人的に携わったのはわずかですが、全国からの応援に加え、身を惜しまずに最後まで協力してくださって当会の会員さん達の支えなしには達成できないことでした。

参加できなかった会員さんからも、「出来ることなら協力したかったけど、この体じゃかえって迷惑かけるから行かなかった。今度は協力できるように頑張って歩くことにした。」などの声が聞かれ、直接参加するだけではない力を感じるとともに、日頃の活動もこうして会員さん達の支えによって成り立っているのだと改めて実感しました。

なんといってもこの活動の醍醐味は、お茶碗をもらいにいらっしゃる被災者の方々との交流です。「急須を探してるんだけど」、「どんぶりはなかるか」、「カレー皿がよかとぼってん」、などの声に答えてさがしていると、「恐かったー」、「割れた食器の散乱した上ば必死で裸足で逃げてね、不思議と怪我せんかった」、「高かとに限って割れとるもんね」、「こがんで来てもらおうとありがたかー」等、出会いの喜びをわかちあう場となっていました。

しかし、あるところでは、「〇〇仮設には集会所がなくて誰も支援に来てくれないらしい。そこの知人から自分たちは見捨てられていると泣いて電話があった、何とか行ってもらえないだろうか」、などの声がお茶碗配りをしている最中にありました。すると、「じゃあ、〇日に行こう！」とその場で応える荒井さん。そんなスケジュールに快くのつかる会員さん。

きっと、大変な時ほど人の本来の美しさが現れるのでしょう。何が起きても、そこに助け合える人がいれば大丈夫なのだと思います。かけがえのない経験でした。

(永田貴子)



上:トラックから降ろす手伝いをする仮設住宅の被災者
右:好みの食器を探す人々



震災に伴う障がい者の移送支援

障がいを抱えた人たちが、災害弱者に陥りやすいことはこれまでも何度も言われてきたことである。熊本地震も、あらゆる人々を不安の中に陥れ、特に、障がいを抱えている人を直撃した。幸い、地震直後から、全国からの応援を受けて災害地障害者支援センターなどが立ち上げられた。「でんでん虫の会」にも身寄りのない障がい者が多く、関係機関からの依頼を受けながら新規の依頼が寄せられたが、限られたスタッフとしてできることから対応した。

視覚障がい者：地震直後、みなし仮設のアパートに転居を余儀なくされた視覚障害の方は、通院、社会参加、就労のために外出をするにも慣れない土地のため、また、視覚障がい者のガイドヘルパーが少ないため外出が自由にできない状況である。「でんでん虫の会」のささえ愛サービスを使い、週に2回～3回の外出同行を利用されている方もおられる。

精神障がい者：地震による不安はうつなどの精神障がいを悪化させ、外出ができない状態を引き起こした方は少なくない。また、ペットを家族同様に養っている人もあり、福祉タクシーの利用が困難だったり、買い物の際に店舗に入りにくい事態も起きている。そうした方々からの支援要請も「でんでん虫の会」へ寄せられ、ささえ愛サービスなどで同行している。人数こそ多くはないものの、繰り返し利用される方が多く、対応できるスタッフとの信頼関係を深めることで障がいの軽快化に効果があればと願っている。

ひとり暮らしの方は体調の変化に家族が気づくこともないため、健康の自己管理がむずかしく、気づいた時には手遅れとなる方も多い。同行中の会話を通じて体調の変化に気づき、医療機関や福祉事務所、地域包括支援センターなど必要な機関へつないでいくことも大切な働きと思われる。

(大洲亜紀)



被災者アンケート集計と結果①

被災者アンケートは、任意に熊本在住の被災をした人々に対して実施した。その集計結果をここにリストアップし報告する。

このアンケート結果を、〈とても不安だ〉〈不安だ〉〈少し不安だ〉の3カテゴリーに焦点を当てて文章化した集計結果にて報告する。

(アンケートについては、資料集P.48～49を参照下さい。)

〈とても不安だ〉

- ・お風呂に入れない。毎日お湯をわかして水筒に入れている。
- ・夜中に具合が悪くなった時にどうしたらいいのかわからない時がある。
- ・次の地震の時に逃げ遅れるのではないかと心配。
- ・余震があり、沢山不安がある。
- ・地震、豪雨災害すべて体験。介護の仕事をしていた経験を活かし、ボランティアとして参加するも、気が付いた時にはストレスたまり、心が折れていた。

〈不安だ〉

- ・病気がちだから いざ人と会う時、どうしようと思う。
- ・不安、困ったこと→体調不良、収入の低減。
- ・右半身が、とても弱っている事。
- ・体の具合が悪く、生活に困っている。
- ・家が古いので、次の災害時に耐えうるかと不安。
- ・仕事をしているので、耳がほとんど聴こえない母を一人残すことが不安。
- ・今後、大きな地震があったら家がつぶれるのではないかと不安。
- ・お金(生活費)に困っている。
- ・2年後の住居がはっきりしない事が不安だ。
- ・1人暮らしなので、病気やケガをした時が不安だ。
- ・持病があるので病気が悪化したとき、助けてくれる人が居ない。
- ・物資の支援より心の支援を重視して欲しい
(地震後に話を聞いてくれる人が居なかった)
- ・避難所にいるとき勝手に住居が取り壊されて衣類、生活用品すべてなくなった。

〈少し不安だ〉

- ・全壊、母屋解体2年後、固定資産税が6倍になりそう。
- ・食糧支援が今一番必要な支援だと感じている。
- ・独身のため、病気になった時、また死亡した後の事が不安である。
- ・気管支炎で呼吸が苦しい、今まで何でも自分でできていたが最近よく転んでしまう。
- ・必要な支援→空き缶、空きビンの日に出せない。埋め立てゴミも出せない。
- ・夜になると何かあるのではと思い、夜が眠れない。
- ・友達もいないし、息子たちが遠いので不安。
- ・木造アパートなので、次に強い地震が来れば壊れそう。
- ・経済的に厳しいため、いつまで生きられるか不安だ。

被災者アンケート集計と結果②

- ・備え付けの流し台がはずれてしまったので、避難するとき危険だ。
- ・また地震があればおそろしい。
- ・生活に必要な物が持っていけない。
- ・浴室、トイレの壁がひび割れあり、壁がくずれないか心配だ。
- ・再度の地震が不安である。
- ・もう一度同じような地震がきたら、今住んでいる所はもたないと思うので不安だ。
- ・被害は軽かったが、また地震が来ないとも限らないので不安だ。
- ・入院の時の保証人がなく困っている。
- ・冷暖房が無い、洗濯機も持っていない。
- ・送迎を頼めたら助かる。
- ・現在公団住宅に住んでいるが、4/20日までの期限なのでアパートを探すのに時間がかかりそう。

まとめ

集計した結果では、〈とても不安だ〉が一番少なく、〈少し不安だ〉との回答が最も多い回答だった。被災者アンケートの集計結果の整理をする中で〈少し不安だ〉のカテゴリーに回答しているが、記述を見る限りでは〈不安だ〉〈とても不安だ〉に該当するのではないかと考えさせられるような回答も多数寄せられていた。

また、最も多い困りごととしては「被災後の生活に関すること」であった。もう暫くすると被災後1年となるが、物資の支援、心の支援が必要であるとの回答は非常に多く、回答数の人々だけでなく、現在の熊本県内で生活をしている人々の中には被災後の支援をもっと充実させるべきであるとの要望が多く存在していることが集計結果から見て取れた。

今後の支援について

「でんでん虫の会」として被災後の人々に対して、出来る限りの支援を行っていかねばならないと考えている。生活相談があった際に受けるだけでなく、まずはアンケートに対して被災後の不安を抱えていることを回答した人々に対しての訪問支援や相談を行っていくことが肝要であるために、積極的な支援を行っていくべきではないかと考える。

最後に、日々大変な生活を送っている中、今回の「被災者アンケート」にご協力して頂いた方々、アンケート集計に関わった伴走型支援市民ボランティアの方々、実施において協力いただいた関係機関の方々に対し感謝します。

(山本大智)

相談支援センター



山形助成

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

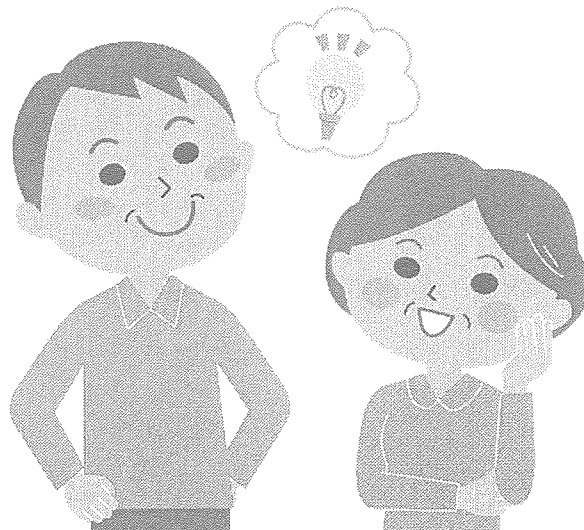
相談支援センター①

支援に携わるようになって、改めて、人は本来美しい心を持っているのだと思うようになりました。ご相談なさる方々のほとんどが、「迷惑かけてごめんなさいね。可能ならば支援を受けたお返しをしたいけど自分には何も出来ないから」と口になさり、最低限の支援で済むようにと心がけてくださいます。何でも自分で出来るとかえっておごりが出るのでしょうか、現状に感謝できずにもっともっとと不満を抱く自分の心・・・お手伝いをさせて頂くことで、心を綺麗に磨いている今日この頃です。

《相談内容など》

- ・足や目が不自由になって歩行に介助が必要な方の通院、手術、入院手続きなどの送迎、付き添い。
- ・ご本人と医師との間の意思伝達が時間の限られた診察時間では困難な時など、診察や説明の場に同席を依頼されることも複数ありました。
- ・苦痛の原因が特定できずに色々な科を受診なさるケースなど、ご本人のお気持ちを整理するお手伝いをさせていただきました。
- ・熊本地震後は特に、不安感にさいなまれて心身の不調を招き身の回りの事を一人でやるのが困難になられた方が増え、片付けや手続き、支払代行、買い物、入浴介助、免許更新、お話相手などをご依頼頂きました。
- ・落ち込みが激しい時には、訪問看護などの支援につなぐことで徐々に落ち着きを取り戻されることもありました。
- ・けがや入院、避難生活などがきっかけで、体力・筋力が急速に低下した方の相談を複数頂きました。
- ・不安に歯の痛みが重なり食欲がなくなったり、転倒しやすくなったり、動くのが面倒になってさらに悪循環になったり・・・今リハビリをしておかないと！という思いに駆られました。
- ・ささえりあの窓口におつなぎして介護認定の申請を行うこともありましたが、転倒によって救急車で複数回運ばれても要支援と認められないなどの現実を受け、考えさせられました。早めのリハビリ支援があれば、短期間で安定した自立に戻すことが可能なことも多いように思います。

(永田貴子)



相談支援センター②

相談支援センターでは平日に社会福祉士が駐在している他、毎週月水金の昼間に生活支援員が駐在しています。こちらでは主に電話や来所による相談の対応の他、訪問や同行も行っています。また、相談の際に頂いた個人情報書類をフォルダに整理する、入会時に書いて頂く申込書を元に会員情報を会員名簿に記入するといった情報管理を行っています。

寄せられる相談は以下のものが多い傾向にあります。

「金銭管理に関する事」…ギャンブルにお金を使い込んでしまう、公共料金や家賃を滞納してしまう、移動が困難なので代理でお金を下ろして欲しい等。

「健康に関する事」…通院の際の同行や送迎、入院の手続き、うつ病等の精神疾患に関する相談、緊急性を伴う体調不良による連絡等。

「住居に関する事」…転居の際の身元引き受け、高齢者施設入所に伴う契約について等。

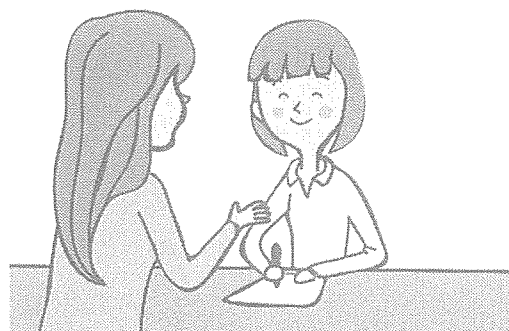
新規相談者の増加

今年度の大きな特徴として挙げられるのが新規相談者の増加です。特に被災して家が暮らせなくなった方の転居の際の身元引き受けに関する相談や、高齢の方ですと施設入所に関する相談が増加の傾向にあります。地震に被災して以降は特に高齢の一人暮らしの方が今後の暮らしに不安を抱えてしまい、精神的に不安定になる、体調を崩す等の状態に陥り相談に来る例が増加しています。一人で不安を抱えている方の中には水曜日に開催される「おしゃべり会」で会員と会話する事で安心される方や「いつでも立ち寄る事の出来る居場所が欲しい」と希望される方がおられました。転居や送迎といった物理的な支援とは違い、不安や孤独感の払拭と言った精神面の支援こそ会員同士の支え合いが生きてくる局面であり、支え合える場を作っていく事が今後強く求められます。

多様な相談支援の必要性

会員の中には病気や高齢化に伴い移動が困難な方がおられます。孤独を抱え、誰かと話したいと思っけていても「おしゃべり会」や「みんなの家」に行く事が困難な方も年々増加傾向にあります。相談をすると迷惑になるのではないかと、相談してもいいのだろうか、と言った思いから連絡を絶ち心身共にギリギリの状態まで追いつめられている方もおられました。そういった方のために相談員や社会福祉士のスタッフが自宅へ訪問する機会を作っています。訪問する事で抱えていた不安や生活の困りごとを伝えて頂く事が出来ています。相談する事にためらいがちな方に対しては、どんな事でもひとまず話して頂くよう促したり、本人の伝えやすい手段で相談が行えるよう、メールでの相談も行う事もあります。年代や障害、困りごとの内容等、多様な方が日々相談に訪れる「でんでん虫の会」だからこそ、様々なアプローチを利用して会員と関わりを持ち、孤立を防ぐ試みが為されています。

(谷川優紀)



相談支援センター③

新規相談への対応

NPO法人でんでん虫の会は、本来、ひとり暮らしの会員同士が支えあうことを目的として設立した団体である。しかし、熊本市中央区九品寺に開設した相談支援センターには、連日外部からの相談の電話がかかる。訪問などで不在にすることも多いため、携帯電話へ転送するようにしており、運転中や訪問先にもひっきりなしに電話がかかる。

4月1日から3月13日までの1年間に受けた「新規相談」は、226件であった。地震後の5月の記録ノートが見当たらないため、実質10.5ヶ月の間に1ヶ月平均21.5件、1日一件の「新規相談」が寄せられたことになる。

すべて初めて受けた相談であり、既に会員となっている方や過去に受けた方からの相談電話も一日に20件ほどあるが、この中には含めていない。

相談のうち、地震関連の相談が104件、約半数を占めており、4月から7月の相談はほとんどが地震関係の相談であった。

また、相談経路は多い順に、『支援団体』からの新規相談が66件、『本人家族』から61件と圧倒的に多く、『地域包括支援センター』及び『医療機関』からそれぞれ17件、『不動産・家主』及び『行政機関』から15件、『居宅介護支援事業所(ケアマネ)』から14件、『保護課(福祉事務所)』から7件、その他14件であった。

相談内容については、以下の通りである。

在宅支援	生活用品	金銭管理	健康支援	入院支援	交流支援	就労支援	買物支援	手続代行	家事支援	その他
71	39	23	22	21	15	11	7	3	3	41

アパートや介護関係の施設入居や、医療機関での手術・入院に伴う保証人の依頼が圧倒的に多い。しかし、小さなNPO法人だけで担うには負担が大きい。今後仮設住宅やみなし仮設からの転居に際しては大きな混乱が予想され、公的な保証制度や基金設立など緊急な構築が求められる。

※詳しい相談経路と相談内容は、資料集P.50～55をご覧ください。

(吉松裕藏)

連携委員会



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

医療・福祉・生活支援団体による連携委員会の開催

①目的:

医療・福祉・生活支援団体間の連携を図り、制度外サービスの実態を明らかにし、世代や立場を越えた相互支援の新たな居場所づくりに取り組むことができた。

②実施する内容:

各連携団体から推薦を受けた委員 10名

③実施日:

9月21日 新たな居場所づくりのための連携委員会(第1回)

10月18日 新たな居場所づくりのための連携委員会(第2回)

11月14日 新たな居場所づくりのための連携委員会(第3回)

④実施回数:全3回

⑤実施場所:熊本中央YMCA会議室

⑥対象者・数:

連携団体より1名、当会理事・スタッフ陪席

川崎 孝明(委員長、尚絅大学短期大学部)、神保 勝巳(熊本YMCA)、小出 照幸(ふくし生協)、高木 聡史(心をつなぐよか隊ネット)、今村 和八(熊本市社会福祉協議会)、中村 倭文夫(グリーンコープ)、日隈 辰彦(ヒューマンネットワーク熊本)、水野 直樹(熊本県防災士協会)、宮原 浩一郎(地域包括支援センター)、山川 李好子(子ども食堂)

⑦スタッフ構成:事業担当者1名

⑧連携団体の役割:

新しい居場所づくりについての意見交換、伴走型支援市民ボランティア養成講座内容の検討と案内、「ひとりひとりの居場所がある楽しいまちづくり」講演会・ワークショップについての検討と案内

(吉松裕藏)



医療・福祉・生活支援団体による連携委員会の開催

「新たな居場所づくり」のための医療・福祉・生活支援団体による連携委員会が3回(2016/9/21① 10/18② 11/14③)にわたって開かれました。

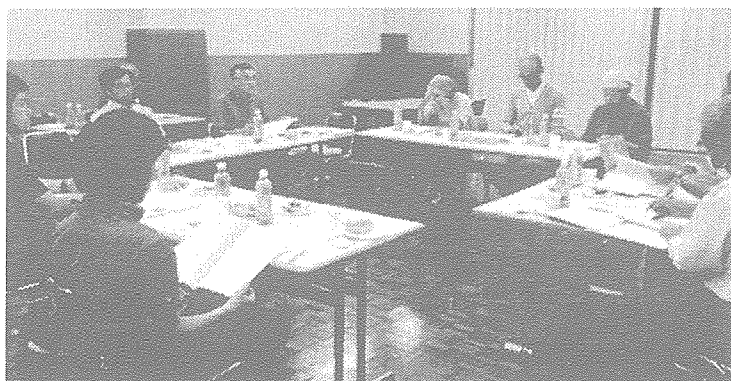
当会理事で委員長の川崎孝明先生をはじめ、ふくし生協、熊本市社会福祉協議会、ヒューマンネットワーク熊本、地域包括支援センター、熊本YMCA、心をつなぐよか隊ネット、社会福祉法人グリーンコープ、熊本県防災士協会、子ども食堂の代表者より構成された委員の皆様より、日頃の経験に基づく大変貴重なご意見を頂くことができました。

まず、吉松事務局長より毎週水曜日に実施されているおしゃべり会を発展させて、子供から高齢者まで幅広く集える交流と居場所になる場を提供したいという思いが語られました。

- ・「食」は大切な要素
- ・固定した場所の前に巡回型もいいのでは
- ・被災地のサロン活動も合わせて
- ・交通手段がない方もいるのでは
- ・男性単身者は特に孤立しがち
- ・趣味活動を充実させた方がいい
- ・子育ての相談に乗ることもできるといい
- ・継続できないと意味がない
- ・運営費をいかに確保していくか
- ・伴走型支援市民ボランティア講座の受講者をそこにつなげていきたい
- ・連携して告知活動をしていこう などなど

何より、実際に現場で支援活動をなさっている方々と思いを分かち合えることでさらに一歩を踏み出す力を増すことが出来たように思います。皆さん、自分たちで提供できるものは互いに補い合って行こう、という姿勢で話して真剣に議論してくださいました。心より感謝申し上げます。

(永田貴子)



交流と居場所づくり



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

富山型デイサービス訪問①

1. 日時:2016年9月25日(日)～26日(月)1泊2日
2. 場所:NPO法人にぎやか(富山市綾田1-10-18)
NPO法人しおんの家(富山市水橋辻ヶ堂777)
3. メンバー:川崎孝明、永田貴子、山本大智、谷川優紀(以上4名)

4. 概要

(1) NPO法人にぎやか

にぎやかの事業所は、1997(平成9)年に開所され、2003(平成15)年に自宅から現在の事業所へ移る。2007(平成19)年には事業所の近隣において、認知症デイサービスを開所した。にぎやかの利用者の内訳は、2009(平成21)年度をみると、介護保険利用者(50.9%)、障がい者・障がい児・学童・乳幼児等(49.1%)だったが、2014(平成26)年度では、介護保険利用者(31.3%)、障がい者・障がい児・学童・乳幼児等(68.7%)と変化しており、障がい者・障がい児等の利用が増加していた。

にぎやかを支えるスタッフは、常勤12名、非常勤19名、有償ボランティア4名となっており、最年長スタッフが78歳、最年少スタッフが20歳、平均年齢が43歳であった。



写真①ヒアリングの様子



写真②にぎやかのリビング風景

NPO法人としての総収入は約1億1千万円、総支出は約1億となっていた(平成27年度収支決算)。内訳として事業費が約8千7百万円、管理費2千2百万円のほか、営業外収入が約250万円あり、当期は780万円の利益があった。

当法人は介護保険事業のほか、さをり事業、珈琲販売事業、見学事業、リサイクル事業などさまざまな事業を展開し、そこで多様な人材を活用することで本人の居場所を提供していた。

富山型デイサービス訪問①

(2) NPO法人しおんの家

当法人は1999(平成11)年にNPO法人を取得し、グループホームしおんの家として開設した。現在の事業内容は、グループホームしおんの家・愛(利用者13名、職員16名)、グループホームしおんの家・望(利用者9名、職員12名)のほか、しんの家・信(デイサービス10名、ショートステイ4名、福祉有償運送登録会員47名ほか、職員28名)、さふらん(認知症デイサービス12名、ホームヘルプ36名、職員22名)と多岐にわたっている。

利用対象者は高齢者、子ども、障がい者・児、地域住民と幅広く、地域のなかで普通の暮らしを目指している。法人のコンセプトは「自然がいっぱい」「地域共生」「小規模多機能」を挙げており、認知症ケアについては、最期まであるべきとの看取りへの思いがある。



写真③ヒアリングの様子



写真④リビング風景

しおんの家では「3つの家で9つのサービス」を提供している。具体的には、①遊ぶ「キッズルーム」(保育サービス)②聴く「よろず相談」(なんでも相談窓口)③来る「ホームヘルプ」④憩う「みんなdeよってカフェ」(喫茶店)⑤集う「多目的スペース」⑥通う「デイサービス」⑦泊まる「ショートステイ」⑧住む「グループホーム」⑨住む「グループリビング」(対象は誰でも)の9つである。

このしおんの家では、地域共生型のサービスが展開されており、地域に根差した居場所づくりの取り組みがなされていた。

(川崎孝明)

富山型ディサービス訪問②

日程:平成28年9月25・26日

メンバー:川崎先生、谷川、永田、山本大

序:

5:50分(AM)全員が熊本駅に集合し、列車の到着を待っていた。早朝にも関わらず見送りには吉松事務局長が熊本駅改札口に来て「視察、よろしくお願ひします」という言葉を背に受け、富山型ディサービスの2日間に渡る視察は幕を開けた。

メンバーには理事である川崎先生(尚綱大学)を筆頭に、当会スタッフの谷川、永田、山本(大)の4名での富山型ディサービス視察であり、それぞれの思いを胸に事前に勉強した富山型ディサービスの情報を携え、どんなところなのか? 質問は何をしようか? と行きの列車、飛行機、バス、列車、バス、列車と繰り返して渡る乗り換えをしながら考える行路であった。そうこうしているうちに富山駅に着いたのは日暮れ時、度重なる乗り換えで少し皆疲れていたが到着したときに見た富山駅はとても広く、外に出ると夕日が見事だった。

9月25日(日)は、ほぼ移動と明日のスケジュール調整と確認のみで終了した。

9月26日(月)、早朝の準備を済ませながら窓の外を眺めると早朝出勤の会社員、OL、高校生などの人々が慌ただしく列車に乗り込もうと駅を行き交っていた。滞在できる時間は限られているために4人も慌ただしい朝を迎えていて、先方への連絡、交通機関の経路の確認に追われる忙しい早朝だった。チェックアウトを30分早めに済ませ、10時ごろには一目の視察先へ到着した。着いた先で見た光景は施設という感じではなく一見して普通の一軒家であった。看板があったために(にぎやか)だと理解し、ご挨拶を済ませ、ガイドの方に連れられ施設案内を受けた。階段や設置してある本、椅子やテーブルに至る隅々まで利用者に対する配慮が行われていて衝撃を受けたのである。この点では特に衝撃を受けたものが職員(デスクワーク)や貴重な資料等を管理している場(2F)であってもまるで普通の家なのかというように利用者が遊びに来ていて、(本来は1Fが利用者のためのスペースであり、2F奥は職員のためのスペースのような配置であった)しかし、利用者も職員も皆家族だという理念のとおり、そこに壁はなく仕切りもない、職員と利用者とのコミュニティの間に全く壁を設けず職員の仕事ぶりに目を輝かせ、自分もお手伝いをしたいという利用者の姿が私たちの目に映ったのである。その部分について、(にぎやか)の素晴らしい所の一つであると感じた。

2件目の視察(しおんの家)に行った際には(にぎやか)と違い「施設」であったが利用者に対して特段の配慮を行っていた。窓には日の光がきれいに差し込むような作り、ベッドから見える綺麗な外の景色や人の出入りが分かりやすい空間作りをしているが、きちんとプライバシーを守っている所、食事は毎回どんな食事が良いのかを利用者に聞いてからの調理など至れり尽くせりの施設であり、こんな施設があればいいのにと感じた。

富山型デイサービス訪問②

どちらの施設にも共通していたのは、利用者のために何が出来るか？という気持ちだけでなく、どうしたら利用者も職員も皆幸せな環境が作れるか、自分たちも入りたいと思うのかという感情から生まれ、「うちに入れば、最後まで面倒見ます」という絶対的な安心感がそこには存在したのである。これが他には中々真似できない「富山型」であった。

終「富山型デイサービス視察のまとめ」

富山型デイサービスでは「利用者も職員も関係なく」という事をモットーに掲げていた。運営しているのは職員だけでなく無償のボランティアや利用者が主体的に活動を行っていて、それを支えるスタッフがいるという理想的な形で運営をしていました。

< 富山型デイサービスの特長 >

- ・利用者スタッフの距離感が近い。
- ・一つの場所で複数のサービスが利用出来る。
- ・ゆりかごから墓場まで面倒を見ることをモットーとしたサービス。
- ・気軽に立ち寄れる家のような空間。
- ・みんながみんな家族です。
- ・仕事が出来れば、自分たちで作ります。
- ・それぞれにきちんと役割がある。

富山型デイサービスはこれらの特長を踏まえて運営をしているため、利用者、地域、スタッフ全員が共同となって人を支えるという構造が出来上がっていました。

一軒家のような雰囲気に加えて皆で夕食のメニューを考える、施設のガイドも職員が行うのではなく施設の利用者がガイドとなって行う利用者主体の施設でした。

でんでん虫の会の活動としても現在行っている活動と重なる部分、富山型デイサービスでの活動を見習わなければならない部分や課題も多く見つけました。

ゆりかごから墓場まで、みんな家族だというテーマを見習っていきたいと思いつつ、富山型デイサービスの訪問を終えました。

お世話になった富山の施設のスタッフの方々、利用者の方、同行して頂いた方々、企画して頂いた当会の船本代表、吉松事務局長のお二方に感謝申し上げます。

(山本大智)

『でんでん虫の家』

「でんでん虫の家」の紹介

昨年12月下旬に「でんでん虫の家」が居場所作り事業の一環として開放され、週に二回程度(月曜日と金曜日)に12時～16時までの時間に、好きな時に好きなだけ居てもいい場所、プログラム等は一切なく、これをして下さいとかいう事も一切ない居場所が完成しました。

この居場所にはまだ多くの人数が来所したわけではありませんが、一度来てくれた人たちは何度も足を運んでくれる場所になっています。その日の体調や気分によってその日にやることは毎回変わります。今日はお話したい、今日はゆっくり眠りたい、今日は美味しいごはんを一緒に食べたい、何かして遊びたいなどの要望に対してみんなで同じことをしたり、バラバラに好きなことをしたりと本当に家のような居場所作りをしています。

完成当時にはまだ荷物も何もない状態でしたが、徐々にみんなであれがない、これがないと言いながら、今でも物を持ち寄ったりしながら「みんなで作る、みんなの居場所」として試行錯誤しています。

「でんでん虫の家」の来所者を、まだまだ募集しています。

「でんでん虫の家」は好きな時に好きなだけ来て頂いていますが、人数がもつと増えると出来る事、みんなでやると楽しいこと等様々な可能性がぐんと広がってきます。皆で料理をしたり、近くのボーリングをしたりと、出来る限りでやりたいこと、したいことをして日中を過ごすことでそれぞれの楽しみが増えてきます。より多くの人で作る理想の「居場所作り」のために来てくれる人、手伝ってくれる人を募集しています。

(山本大智)



伴走型支援士の養成



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

伴走型支援市民ボランティア講座

2016年12月21日、22日の2日間に渡り、「伴走型支援市民ボランティア養成講座」を開催致しました。

「伴走型支援士」の養成講座をされている、NPO法人ホームレス支援全国ネットワークの全面協力の下、20名の受講生を迎え、困窮者支援に関する学びの時間を持つことができました。

当会の会員やスタッフはもちろん、同じ熊本で高齢者や被災者等の困窮者を支援している方々も、多く受講されました。

講座内容は、下記の全8コマです。

- 1.今日の生活困窮者問題と伴走型支援Ⅰ
- 2.今日の生活困窮者問題と伴走型支援Ⅱ
- 3.生活困窮者に対する就労支援Ⅰ
- 4.生活困窮者支援と司法福祉Ⅰ
- 5.生活困窮状態にある女性支援Ⅰ
- 6.生活困窮者に対する家計再建支援Ⅰ
- 7.サポートプラン方式による生活困窮者支援Ⅰ
- 8.サポートプラン方式による生活困窮者支援Ⅱ



NPO法人抱僕理事長奥田知志氏の講義

最後の2コマでは、参加者全員でワークショップを行いました。

仮の困窮者の事例を用いて、もしその方を支援するとしたら、どのような支援を行うかということについて意見を出し合い、サポートプランを作成していきました。

サポートプランは、就労、生活住居、健康、社会保障、人間関係、法律、金銭、生きがいの8つの視点から考えていきます。

単純に知識を習得するだけにとどまらず、具体的な困窮者を想定して実際にプランを考えてみることで、その難しさを体験することができました。また、他の参加者の意見を聞くことで、これまで困窮者支援に従事されてきた方々も、あらたな気づきを得られたようです。

困窮者支援は、通り一辺倒の手法ではなく、ひとりひとりに合わせて、継続的に、まさに「伴走」しながら行っていく必要があるということを実感しました。

今後は、今回のボランティア養成講座に参加された方と共に、さらなる支援に取り組んでいきます。また、今回、時間の都合で受講できなかった方がいらっしやったり、「もっと学びたい！」というお声もありましたので、引き続き、こういった学びの場も作っていきたいと考えております。

個人的には、困窮者の中でも、刑務所出所者等の自立に興味があったため、講座の中でも、「4.生活困窮者支援と司法福祉Ⅰ」がとても学び深い時間であった。刑務所出所者は、一般的な困窮者よりも、さらに多くのハードルを抱えている。一方で、支援の手が届かなければ、やむなく再犯をしてしまうという、社会にとっても最悪な負のスパイラルに陥ってしまう。誰か一人で支援するのではなく、複数の人や組織で協働して、「伴走」していくことが肝要だと感じた。

(坂東喜子)

伴走型支援市民ボランティア講座とフォロー

この度の熊本地震によって、今まで埋もれていた社会的な問題が色々と浮き出てきた。その中には当会が発足後支援してきた『ひとり暮らし』の方々、特に身寄りの無い方の問題はより大きく浮き出てきたように感じる。保証人がいないから引っ越しができない、引っ越しや手続きなど手伝ってくれる人がいない、被災した手続きが分からずできない、などと『ひとり暮らし』で身寄りが無い方々の多くの相談が寄せられた。(詳細については、P.18「相談支援センター③」を参照下さい。)

そこにはこの震災後に、支援団体や行政・医療機関などから紹介された新規会員の増加が目立っている。本来であれば、行政が何らかの施策を講じるべきであるが、手が回らずボランティア団体である当会を頼り、窓口に来た相談者に紹介しているのである。

これらの事から、熊本においてその場限りの支援では無く、中長期的な様々なお困り事を支援できる団体や人を増やすべく、伴走型支援市民ボランティア講座を開講した。それは、熊本で当会が今まで行ってきた伴走型の支援を広め、共に支援していく仲間が増える事を期待しての開講であった。

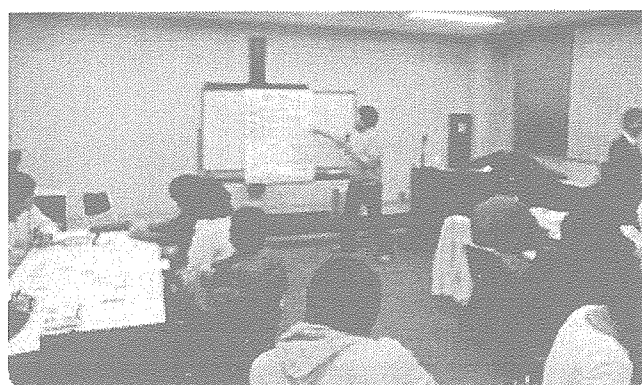
受講者数は21名で、内2名は1日だけの受講。『伴走型支援市民ボランティア受講証明書』を手にしたのは19名。その9割が被災者支援団体などの団体にて被災者支援活動を行っていたが、被災者支援活動を含め支援歴が1年未満が半数であった。

この講座を開講した事で、当会としては受講者の各団体との『繋がり』ができた。そして、同じ事を受講者からも聞く事ができ、お互いに協働の『繋がり』も生まれた。それだけでも開催の意義があったと感じている。

受講者のアンケートを見ると7割から8割の方が講義内容をよく理解され、『伴走型支援』の重要性を感じられたとの感想があった。また、より深く学びたいと7割の方が希望され、うち一人は2017年1月に大阪まで行き伴走型支援士2級講座を受講された。この事により、当会としても伴走型支援をより多くの方に学び知っていただくため、次年度において本講座開講を計画する事となった。

資格認定機関であるNPO法人ホームレス支援全国ネットワークと共に、震災から復興している熊本において縦割りの支援活動ではない、横串の伴走型支援活動を広める事で、ひとりでも『暮らしよい熊本』になる事を確信している。

(山口由弘)



左・上:最後の講座、グループワーク

各グループとも、とても白熱していた

伴走型支援市民ボランティア・フォロー

伴走型支援市民ボランティア講座が終了し、19名に受講証明書を交付した。その後、受講者に声をかけ当会の被災者支援について協働する事を依頼した。

まずはどのようなお困り事があるかを把握するため、被災状況アンケート(配布298名中、回答85名)の集計から行き、そのアンケートの回答から支援が必要な方を対象として活動を開始した。(アンケートの集計内容については、P.13~14を参照下さい。)

被災状況アンケートにより、支援が必要だと思われる方を対象にリストを作成し、どのような対応や支援を行うかを話し合った。

特にアンケートに記入された

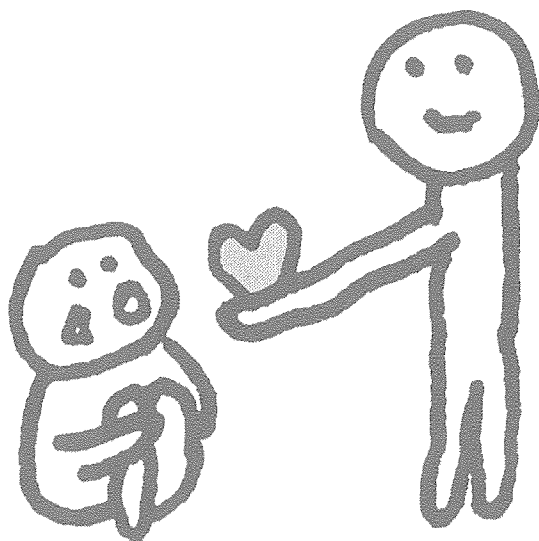
- ・さみしい
- ・今まで住んでいた地域から離れ、話し相手がいない
- ・困り事にどうすれば良いか分からない

などの回答を取り上げて、回答者によって記入された連絡先に問い合わせ訪問などを行い、ヒアリングを重ねてどのような支援が必要かを意見交換し、被支援者に合わせた支援方針を定める事を行った。

その後は被支援者の状況を考慮し、その支援内容に必要な助言や事例を挙げ説明し、伴走型支援市民ボランティアが一人で抱え込まないように問題点や気にかかる事を当会スタッフ間でもシェアする事に心がけた。

まだまだ支援継続中であり明確な結果は出ていませんが、支援者の生き活きとした表情と被支援者からの感謝の言葉から、当会の伴走型支援は順調であると考えている。

(山口由弘)



ひとりひとりの居場所がある 楽しいまちづくり

活動報告会 & 先進事例紹介講演会



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

第1部 学びのとき

第一部ではNPO法人暮らしづくりネットワーク北芝(以下:北芝)の中嶋三四郎氏からスライドを使って講演を行った。中嶋氏をはじめ5名の北芝のスタッフ達の、ユーモアを交えた話に聴者の間からは笑い声が度々起こる和やかな空気の中、講演は行われた。

はじまりは「震災」

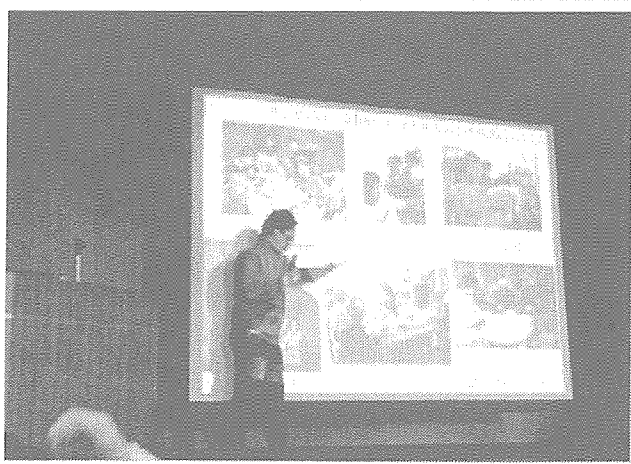
「暮らしづくりネットワーク北芝」は、箕面市の被差別部落「茅野地区」の差別解消のための運動を源流として始まった。部落差別問題に対しては、行政に差別の改善を求める運動の形を取っていた。しかし、1996年の阪神淡路大震災をきっかけに変化が起こる。差別されている・いないに関わらず被災者は全て困っていた。困っている被災者が必要としている事を募って、問題の解消に奔走した事から、行政に頼る従来のやり方から、自分たちで自分たちの問題を解消していこうとする方向へシフトしていく。差別問題を紐解いてみると地域に暮らす人たち全体の暮らしにまつわる問題を解消し、よりよい生活が送れる仕組み作りが必要なのではないかと言う考えから、部落問題に関わらず地域全体をよりよくしていくために事業を行う事とした。

北芝の歴史は試行錯誤の歴史

地域をよりよくして行くために、最初は「つぶやき拾い」という住民が漏らしたニーズや困りごと等の「つぶやき」をひとつひとつ拾い、どのような事を住民が求めているかと言うものの把握を行った。その後、住民達の「やってほしい事」「できる事」のマッチングを行う。その中で、いくつか出てきた住民の要望や特技を使って実際に地域の困りごとの解消を行う動きを行っていく。印象的だったのが、地域の人たちの「やりたい」「やってみたい」に対してとりあえずやってみようと言う姿勢である。風呂場の段差を解消したい、それならスノコで段差を解消してみよう。しかし、実際にやってみないと分からない事もある。敷いたスノコで段差は消えたが、カビが生えたスノコはツルツル滑って危険だと住民に怒られた。実際にやってみてうまくいかなかった失敗談すらも笑いに変えつつ、試行錯誤を恐れなくて挑戦していく。とにかく前に進むエネルギーに溢れていた。

地域にあるもので地域を豊かに

北芝が実際携わったり協力して行われた事業は数限りなくある。時間の関係上省略され、パラパラとしか見れない多数のスライドにも、聴者はそれぞれ気になるキーワードを見つけたのではないだろうか。それらのほとんどは地域住民が主体的に企画し、コンペで事業を説明し場所を勝ち取り準備し成し得ていったものたちである。特別な人材から得た特殊なアイデアではなく「町



に暮らす普通のおっちゃんおばちゃん」が考えたアイデアを形にしていって過ぎない。中嶋氏は「地域に必ずいる面白いおっちゃんおばちゃん」こそが重要であると話す。地域に暮らす人々の考えに目を向け、彼らの希望が叶うステージを用意する事で地域を活性化している北芝の活動は、地域の困りごとの解消だけでなく、地域を「おもしろく」していく仕組みが詰まっている。

(谷川優紀)

第2部 つながりのとき

「学びのとき」で、楽しい楽しい北芝のみなさんの活動を紹介してもらったあとは、いよいよ参加者同士で交流しながら、「つながり」学ぶ時間です。

今回、最も参加者のみなさんが興味を抱いていた、「地域通貨」について、ワークをしながら学びました。まず、初めに、北芝でどのように地域通貨を運用しているかを教えていただきました。地域通貨は、一定のルールさえ守れば、意外と簡単に発行できるようです。

しかし問題は、それらをどう管理し、どう運用していくか、ですよ。

北芝では、現在、「まあぶ」という地域通貨を発行しているようですが、これは、子どもたちが稼げて使える地域通貨なのだそうです。イベントでお仕事体験をしてお手伝いをしたりすることで「まあぶ」を稼げるのです。そしてその稼いだお金は、地域のショッピングモールなどの加盟店で実際に使うことができます。加盟企業は、この「まあぶ」に加盟することにより、本来の「円」という通貨の売り上げも上がるということで、まさに子どもも大人もうれしい通貨です。

一通り、地域通貨の説明が終わると、いよいよワークです。

まず、参加者は、「自分ができること」と「自分が困っていること」を紙に書きだします。車を運転することができるとか、話し相手になれるとか、寝つきが悪いとか、どんな些細なことでも構いません。書き終わったら、その紙と自分の名前を書いた名刺代わりの小さな紙をたくさん持って、他の参加者と見せ合いっこをします。そして、自分が困っていることをしてくれる人に出会ったら、「ありがとう」の意味を込めて名刺を差し出します。反対に、自分がしてあげられることがあったときには、自分の名刺を差し出します。それをできるだけ多くの参加者と繰り返していくのです。

最初は恥ずかしがっていた人もいましたが、徐々に盛り上がり、みなさん楽しそうに多くの方々とお話をされていました。

そして、時間が来たところで、講師の方が、「今みなさんにして頂いたことが、まさに『まあぶ』の仕組みです。子供たちは自分でできることを、それをしてほしい人にしてあげることで『まあぶ』を稼ぎます」とご説明されました。

実際にワークをしてみることで、地域通貨をどうやって作っていけばいいのか、より深く理解できた気がします。

熊本でも近々、地域通貨が流通するかもしれませんね。

ワークに参加して、たまたまお話しした方から、本当に「お仕事」を頂きました。こちらは地域通貨ではなく、「円」ですが…これもご縁ですね。

(坂東喜子)

右：松村さんによる地域通貨の説明

P34：中嶋さんによる「学びのとき」



第3部 交わりのとき

学び、繋がり時間が終わったら、いよいよ待ちに待った「交わりのとき」です。講演会場近くの飲食店で、多くの方が参加して行われました。はるばる大阪から熊本まで来てくださった、「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」のみなさんと参加者のみなさん、そして当会のスタッフで、それぞれの活動について熱く語り合いました。学びの時にはじっくり北芝のみなさんに聞けなかったことや、それぞれが活動する中でぶつかる課題やその解決方法など、話題は尽きませんでした。

「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」のみなさんは、比較のお若いスタッフが多いのも印象的でした。若いからなのか、なんと大阪から車で熊本まで駆けつけて下さったというのには驚きました。大変だったかと思いますが、それすら楽しんでる様子に元気を頂きました。

実は、「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」のスタッフの中には、熊本地震の際にも、何度かの支援活動に来てくださった方もいらっしゃいます。当会も、ご承知の通り震災の復興支援に携わっているため、そのご縁もあり今回の企画を開催することができました。支援やあらゆる社会活動も、1人でやるより仲間でする。仲間内でやるだけより、他の団体さんとも協力しながらやる。そうすることで、あらたなアイデアが生まれたり、大きな力が生まれたりします。そして、そのほうが何より楽しい！そのことを改めて感じさせて頂いた1日となりました。

この講演会開催にあたり、ご尽力・ご協力頂いた、すべての皆様に感謝いたします。

「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」の方はもちろん、熊本で様々な支援活動をされている方とお話することができて、楽しい時間でした。みなさん、エネルギーでたくさんのパワーを頂きました。

(坂東喜子)

自分ができること、持っている知識・経験	私がやってもらいたいこと、教えてほしいこと



2017.2.17 暮らしづくりネットワーク北芝 地域通貨ワークショップ

上：地域通貨ワークショップ

右：盛り上がる“交わりのとき”



資料集

2014年度年度事業報告①

訪問・相談支援事業

生活相談:おしゃべり会来場者(毎回3~4名の相談)、
電話相談(セーフティネットサービス、関係団体からの相談年間243件)
訪問(各区会員宅相互見守り訪問)、
病院同行・見舞い(救急搬送時の対応、入院時保証人、身元引受人)
生活保護申請等同行
財産管理契約受任数(任意代理契約者14名)、
身元引受契約受任数(入居時身元引受35名)

就労・生活支援事業

入居、引越し前の部屋掃除
庭や畑のお手入れ(剪定や除草)
月極駐車場敷地内の除草作業
引越などによる荷物運びの手伝い
逝去後の見送り、遺品整理、部屋の片づけ

交流・文化支援事業他

おしゃべり会 全51回 延べ人数 1,239名 平均24.3名 あいぼーとで実施
4月5回、5月4回、6月4回、7月5回、8月4回、9月4回、10月5回、11月4回、12月4回、
1月4回、2月4回 3月4回

- 4月 5日 お花見会(白川公園:32名) W
4月29日 メーデー参加(グランメッセ:かき氷、ポップコーン:15名)
5月31日 講演会「ささえあいの社会をつくるには」熊本市議 村上 博さん
通常総会開催 出席39名、委任状32名 合計71名
7月 5日 交流食事会(中央公民館:21名) W
9月10日 カラオケ交流会(12名) W
9月13日 交流食事会(中央公民館:18名)
10月16日 生活困窮者シンポジウム 反貧困ネットワーク主催
10月23日 連合・愛のカンパ贈呈式
10月25日 阿蘇バスハイク:18名 W
10月28日 県立大学特別講座「新熊本学」「生活困窮と孤立を防ぐ」学生200名
11月15日 反貧困フェスタ ポップコーン提供(辛島公園:10名)
11月24日 熊本YMCA学院講義「生活困窮者支援～でんでん虫の会活動紹介」年間4回
12月 8日 自殺防止ゲートキーパー養成講座参加:2名
12月 6日 忘年会(喫茶飛鳥:25名) W
12月24日 うつの女性を支えあう学習会(あいぼーと:33名) 県
1月17日 防災まち歩き(大江校区公民館:24名) 県
1月10日 新年交流食事会、餅つき(YMCA:43名) W
1月14日 依存症を支えあう学習会(あいぼーと:30名) 県
1月21日 居場所づくり&生きがいつくり学習会
「よりよいホットラインについて」(あいぼーと:36名) 県
1月28日 「自殺・孤独死を防ぐには?」(あいぼーと:36名) 三村記念基金

高林秀明先生講演&ミニコンサート

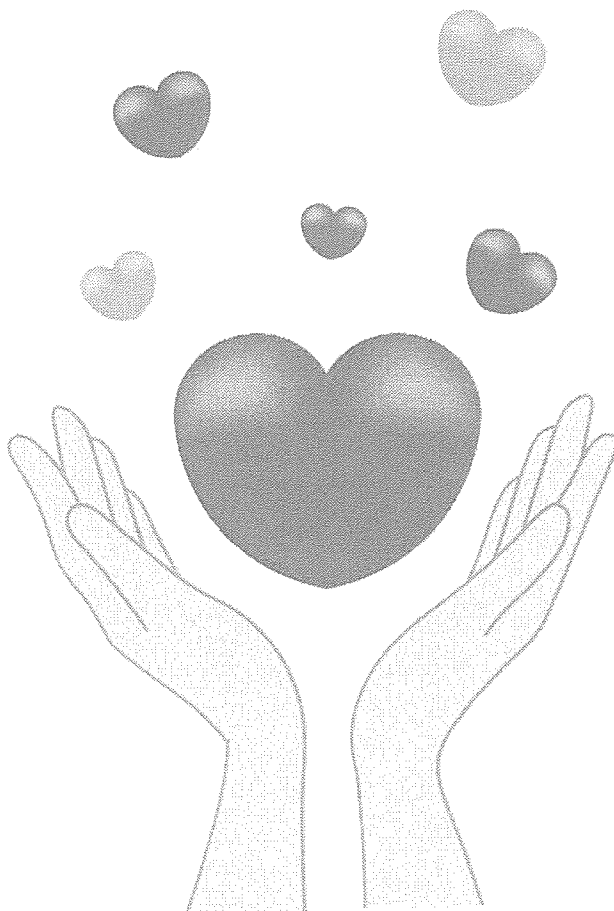
2014年度年度事業報告②

- 2月 4日 高齢者を地域で支えあう学習会「ささえりあについて」(あいぽーと:33名) 県
- 2月18日 「ひとり暮らしを支え合う仕組みをつくろう」ワークショップ 県
明石照久先生:32名
- 2月25日 防災学習会 水野直樹先生:25名 県
- 3月11日 講演会「親子じゃないけど家族です」(あいぽーと:78名)
富山型デイサービス「にぎやか」理事長 阪井由佳子さん、W

委員会開催

1. 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業委員会 11/10、12/22、2/16 W
2. 熊本県地域共生くまもとづくり事業委員会 11/19、12/15、2/2 県
医療・福祉・生活支援関係団体からの参加いただき、ひとり暮らしを支えあう仕組みづくりについて意見を述べていただいた。

※ W: 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
県: 熊本県地域共生くまもとづくり事業



2015年度年度事業報告

訪問・相談支援事業

生活相談:おしゃべり会来場者(毎回3~4名からの相談)、
電話相談(セーフティネットサービス、関係団体からの相談)
訪問(会員宅相互見守り訪問)、

就労・生活支援事業

病院同行・見舞い(救急搬送時の対応、入院時保証人、身元引受人)
生活保護申請等同行、財産管理(任意代理契約)、入居時身元引受、
庭や墓のお手入れ(除草)、引越荷物運びの手伝い、
逝去後の見送り、遺品整理、部屋の片づけ

交流・文化支援事業他

おしゃべり会

年間全48回 延べ人数 1,334名 平均28名 あいぼーとで実施

交流・文化事業

- 4月4日 お花見食事会(中央公民館、白川公園:32名) G
4月29日 メーデー参加(熊本市体育館 かき氷、ポップコーン:10名)
5月13日 バーベキュー食事会(石神山公園:20名) G
7月18日 交流食事会(中央公民館:25名) G
9月12日 交流食事会(中央公民館:25名) Gわ
10月25日 三角・天草バスハイク:21名 わ
10月28日 居場所づくり学習会①「こころの悩みを抱えた人の居場所」29名 わ
11月25日 居場所づくり学習会②「いのちの終わりを迎えた人の居場所」32名 わ
12月6日 忘年会(喫茶飛鳥:37名) Gわ
12月14日 居場所づくり学習会③「生活困窮者の居場所」10名 わ
1月9日 新年交流食事会、餅つき(YMCA:30名) Gわ
1月18日 居場所づくり学習会④「生活困窮者の居場所」12名 わ
2月6日 講演会「生活困窮者支援と居場所づくり」(ウェルパル:120名)
ほっとプラス代表 「下流老人」著者 藤田孝典さん わ
3月26日 お花見食事会(中央公民館、白川公園)35名 G

その他

- 5月18日 ひとり暮らしを支えあう居場所づくり事業検討委員会
6月6日 通常総会開催 出席42名、委任状24名 合計66名
6月15日 小国高校講話「ボランティアについて」
7月23日 熊本YMCA学院 講義「生活困窮者支援について」年間4回
10月31日 反貧困フェスタ参加(辛島公園)
11月24日 県立大学での特別講話「生活困窮と孤立を防ぐには」学生200名

※ わ: わくわく基金(熊本市市民公益活動支援助成金)

G: グリーンコープ福祉活動組合員基金

ささえ愛サービスについて①

ささえ愛サービス(旧:ワンコインサービス)について

1、2016年度、「ワンコインサービス」としての活動

2016年度、でんでん虫の会は、自分だけでは解決出来ない日常の困りごとをお互いに支え合うために「ワンコインサービス」に取り組んで参りました。

例えば・・・

「足腰が弱って一人での買い物が大変！」→お買い物に同行します。

「手料理にチャレンジしたいけど一人だと不安・・・」→自宅に訪問して一緒にお料理します。

「電灯が無くてお部屋が暗いけど、付け方が分からない。」→電気の事なら任せて！手先の器用な会員さんが設置！

「みなし仮設を探しているけど、なかなか家が見つからない」→不動産会社に連絡、物件が見つかったら見学に同行します。みなし仮設に入居する際に必要な手続きも一緒に行います。

「通帳を作りに行きたいけど手が不自由で筆記が困難」→銀行まで同行して代筆し

今年の特徴としては、今まで暮らしていた家が地震の影響で暮らせなくなってしまった方のみなし仮設や新しい住まいを探すお手伝いの依頼や、それともなう引越しや各種手続きの依頼がとても多かった事が挙げられます。家がなかなか見つからない不安や、高額な引越し費用、壊れた家具や家電の買い替え等様々な不自由や不安の中サービスを利用した方からは「ようやく落ち着く事ができそうです」「手伝って頂きとても助かりました」と言った安堵の声が聞かれました。

2、名前が変わりました

ささえ愛サービスは、以前は「ワンコインサービス」という名前で会員の皆さんの困りごとを会員さん同士で助け合う仕組みとして存在していました。ですが、「ワンコインサービス」と言う名前だと、本来の目的である「会員同士の支え合い」から行われているサービスである事が伝わりづらいのではないかと言うスタッフや会員さんらの意見もあり、これからは「支え愛サービス」に名前を変更する事にしました。それに伴い、ささえ愛サービスを会員さん同士でスムーズに行っていけるように改めてサービスを見直しました。その結果、以下のような決まりが出来上がりました。今後はこの決まりをサービスに関わる会員さんらを中心に共有していく事とします。

ささえ愛サービスについて②

ささえ愛サービスについて

ささえ愛サービスは、「でんでん虫の会」の会員同士で一人ではできない事を
支えあう仕組みとして存在します。

支え愛サービスで皆様から頂いたお金はお手伝いしてくれた会員への謝礼金
の一部となっています。サービスを受けた際には皆様の負担にならない程度に
ご協力をよろしくお願いします。

ささえ愛サービスで出来る事

- ・外出の際の送迎
- ・買い物の同伴
- ・病院の同行
- ・入院の際の手伝い
- ・住居探し
- ・市役所や書類作成の手続き代行
- ・住居や庭の清掃や家電の取り付け(一部出来ない家電もあり)
- ・引っ越しの手伝い 等々

※ こちらに書かれていない事でも気軽に相談して下さい。検討させていただきます。

ささえ愛サービスの概要

基本的に500円(ワンコイン)からサービスを請け負います。作業内容や拘束
時間によって値段が変動します。

支払う金額はこちらから提示しますが自分の生活費の負担になるほど支払う
必要はありません。支払い日や減額についてはスタッフと話し合ってください。

サービスの流れは以下になります

① 依頼→②打ち合わせ(日取りやサービス内容の確認)→③支払い金額の設定
→④担当者の調整→⑤サービスを行う→⑥サービス終了後、支払い

ささえ愛サービスのきまり

サービスを受ける人へのきまり

・「でんでん虫の会」はいつでもどこでも駆けつけるよう努力はしていますが、
サービスを行う人も人間です。夜は寝てますし、プライベートの時間もありま
す。また、前々から決まっていた方との予定の兼ね合いもあります。よほどの緊
急時を除いてサービスを行いたい事は前もって教えて下さい。できれば前日ま
でをお願いします。

・サービスを行う人は善意で行っている事が多く、業務内容によっては時に期
待どおりのものになるとは限らない事は先にご了承下さい

ささえ愛サービスについて③

- ・業務内容によってはお断りをしたり、他の専門機関へ繋ぐと言った対応を行う事もあります。
- ・サービスを行う人への不満やサービス内容へのご意見は事務局に教えて下さい。

サービスを行う方への決まり

- ・「でんでん虫の会」の会員さんの中には収入の関係上、すぐにサービス料をお支払いできなかつたり、提示した金額の減額を提案される方もいらっしゃるかもしれませんが、お金や収入を増やすためにサービスを行う方には割のいい仕事とは言えません。ボランティア精神を必要とされるお仕事である事をご了承ください。
- ・相手に対して世間一般の常識や自分の価値観や個人的な好みを押し付ける行為は止めましょう。極力相手の意思を尊重して下さい。
- ・自分では出来そうにない場合やする意思が無い時は断って頂いて構いません。「分からない」「出来ない」はハッキリ伝えて頂けたら助かります。
- ・連絡先や住所など、自分の個人情報を相手に伝える際は自己責任で行って下さい。
- ・判断に迷った時はでんでん虫の会のスタッフに相談して下さい。特に相手の方の健康やお金、人生に関わるような事に関しては極力自己判断で行動するのは避けて下さい。
- ・体調不良や急な予定などで請け負ったサービスが行えなくなった場合は必ず事務局へ連絡して下さい。
- ・ワンコインサービスで知りえた情報はでんでん虫の会スタッフ以外の方へ話すのは禁止です。
- ・相手との関係性や業務への負担、困りごとがありましたらまずはスタッフへ相談して下さい。
- ・いつも「ワンコインサービス」で手助けをしてきてるあなたも、生活の中で手伝って欲しいことや一人でどうにもならない困りごとがあった時はどうぞ気軽に、「ワンコインサービス」を利用して下さい。

※ここで言うでんでん虫の会のスタッフとは

代表：船本満幸 事務局長：吉松裕蔵 理事：山本照文
永田貴子(精神保健福祉士) 山口由弘(伴走型支援士)
大洲亜紀 坂東喜子 山本大智 谷川優紀

以上9名を指します

お茶碗プロジェクト活動記録①

お茶わんプロジェクト活動報告書 2017年10月31日作成

主催 ひまわりの夢企画 代表 荒井 勲

協力 NPO 法人でんでん虫の会 (熊本)

*お茶わんプロジェクトとは、全国の皆様から食器類を提供頂き、被災者に無料配布する活動です。

○熊本集積基地 受入れ期間 2016年5月10日～7月10日 (2か月間)

○配布開始 2016年5月27日～2016年10月18日

◎配布総数 6,710箱

*配布協力団体 *提供協力の皆様、配布協力の皆様、有難うございました。

①でんでん虫の会 ②尚綱大学V (熊本市) ③熊本学園大学V (熊本市)

④わかばミーティング (西原村) ⑤兵庫県立舞子高校 他多数の団体の協力を頂きました。



回	配布日	配布先・団体名他	地域名	配布箱数	配布箱数の累計
1	5月27日	西原村災害Vセンター (わかばM)	西原村鳥子	100	100
2		広安小学校無料食器市	益城町広安	67	167
3	28日	西原村役場⑥無料食器市	益城町	100	267
4	29日	西原村産直店 萌の里	西原村俵山	100	367
5	6月12日	西原村役場⑥無料食器市 (わかばM)	西原村	100	467
6	6月21日	合志市中央コミュニティV祭り	合志市御代志	60	527
7	22日	西原村災害Vセンター	西原村鳥子	220	747
8	23日	西原村災害Vセンター	西原村鳥子	160	907
9		グランメッセ熊本避難所	益城町	4	911
10	24日	食器市・辻団地(舞子高)	益城町辻	200	1111
11	26日	広安西小学校無料食器市	益城町広崎	180	1291
12		御船町・田代食堂G	御船町	20	1311
13		広安小学校無料食器市	益城町	20	1331
14		G コープ・チームレスキュー	熊本市	22	1353
15		ふくし生協	火の国H	大3	1356
16		水前寺共済会館	熊本市東区	10	1366
17	27日	健康保健センター食器市	益城町	200	1566
18		有機生活	熊本市東区	10	1576
19	28日	無料食器市高遊集会所	西原村高遊	140	1716
20		ケアハウスせせらぎ	甲佐町白浜	5	1721
21	29日	老健施設花へんろ	益城町赤井	12	1733
22	7月2日	飯野小仮設 (尚綱大V)	益城町飯野	80	1813
23		川原小学校 (わかばM)	西原村川原	130	1943
24	10日	にしはら保育園 (わかばM)	西原村	130	2073
25	16日	合志市中央コミュニティ	合志市御代志	200	2273
26		万徳公民館 (わかばM)	西原村	70	2343

お茶碗プロジェクト活動記録②

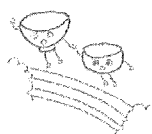
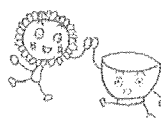
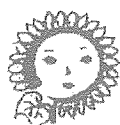
27	17日	東区役所食器市	熊本市東区	400	2743
28		嘉島仮設V	嘉島町	42	2785
29	18日	甲菜ショッピングパーク	甲佐町	120	2905
30	19日	赤井仮設食器市	益城町	40	2945
31		小森仮設集会所	西原村	50	2995
32	20日	温泉施設ウイナス	南阿蘇村	140	3135
33	21日	さんふれあ食器市	菊陽町	20	3155
34	22日	あそ望の郷・くぎの食器市	南阿蘇村	139	3294
35	23日	ファームランド食器市	南阿蘇村	126	3420
36	24日	広崎仮設	益城町	35	3455
37		寺本建設(津森)	益城町	5	3460
38		老健施設 津森倶楽部	益城町	10	3470
39	25日	秋津中央公園仮設食器市	熊本市東区	40	3510
40		合志市中央コミュニティ	合志市	50	3560
41	31日	テクノ仮設団地食器市	益城町	200	3760
42	8月7日	テクノ仮設団地食器市	益城町	150	3910
43		城南スポーツセンター	熊本市南区	60	3970
44		城南文化会館	熊本市南区	30	4000
45	9日	馬水仮設(協力・熊本学園大V)	益城町	80	4080
46	10日	益城災害Vセンター	益城町	15	4095
47	11日	木山仮設団地 *38.5度	益城町木山	80	4175
48		津森グランド仮設	益城町津森	60	4235
49	12日	城南工業団地仮設	熊本市南区	75	4310
50		美里町中央庁舎跡仮設	美里町	15	4325
51		甲佐町白旗仮設	甲佐町	20	4345
52	13日	大津町室南出口仮設	大津町室	80	4425
53		阿蘇市馬方そば	阿蘇市赤水	5	4430
54		口ハス南阿蘇	南阿蘇村	82	4512
55	14日	小池・島田仮設	益城町島田	130	4642
56		赤井仮設	益城町赤井	30	4672
57	15日	御船ふれあい広場仮設	御船町	20	4692
58		高木仮設	御船町高木	20	4712
59	16日	心の医療センター仮設	南区富合	2	4714
60		平原仮設	南区富合	6	4720
61		舞原仮設	南区城南町	15	4735
62		安永仮設	益城町安永	155	4890
63	17日	武蔵丘ほっとステーション	菊陽町	83	4973
84	21日	安永仮設(協力・熊本学園大V)	益城町安永	140	5113
65	26日	西原台公民館(わかばM)	西原村西原台	70	5183

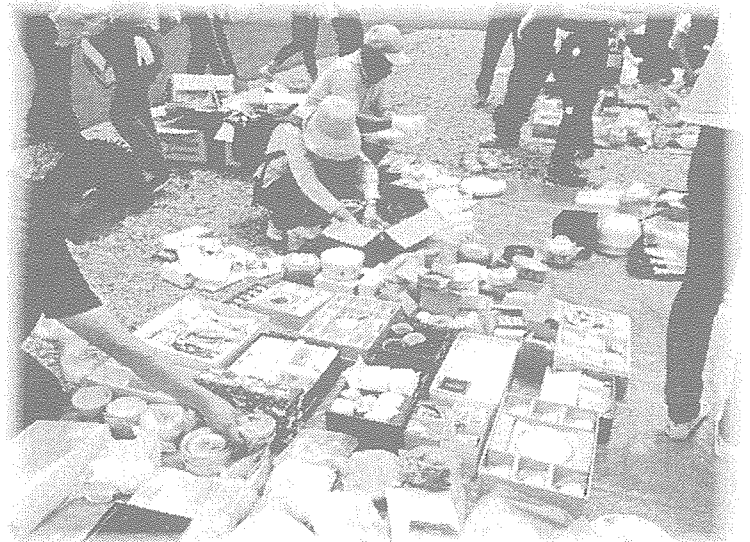
お茶碗プロジェクト活動記録③

66	27日	テクノ団地仮設（尚綱大V）	益城町	150	5333
67	28日	木山仮設（協力・熊本学園大V）	益城町木山	115	5448
68	31日	託麻東小学校	託麻町	30	5478
69	9月4日	木山仮設（協力・熊本学園大V）	益城町	30	5508
70	10日	高柳仮設	宇土市	20	5528
71		新松原仮設	宇土市	20	5548
72		境目仮設	宇土市	30	5578
73	11日	新所芝生広場（わかばM）	西原村	50	5628
74	10月9日	託麻東小学校	託麻町	20	5648
75	11日	テクノ団地仮設（協力・熊本学園大V）	益城町	40	5688
76	12日	のぎく荘ディサービス（西原村社協）	西原村	10	5698
77		小森仮設気晴らしカフェ（西原村社協）	西原村	15	5713
78		岩坂仮設（南阿蘇住民）	大津町	23	5736
79	13日	赤井仮設	益城町赤井	5	5741
80		老健施設花へんろ・赤井店	益城町赤井	23	5764
81		わかばミーティング（小森仮設団地分）	西原村小森	270	6034
82	14日	木山仮設（協力・熊本学園大V）	益城町木山	12	6046
83		馬水東道仮設	益城町馬水	10	6056
84	15日	熊本市東区役所無料食器市	熊本市東区	190	6246
85		老健施設花へんろ・惣領店	益城町惣領	40	6286
86	16日	城南工業団地藤山仮設	熊本市城南区	200	6486
87		老健施設ヘルデきやま	益城町木山	10	6496
88		老健施設ひろやす荘	益城町広安	39	6535
89		惣領仮設	益城町惣領	8	6543
90		安永東仮設	益城町安永	43	6586
91	17日	平田仮設	益城町平田	50	6636
92		広安西小学校	益城町広安西	53	6689
93	18日	櫛島仮設	益城町島田	5	6694
94		テクノ団地仮設（協力・熊本学園大V）	益城町	6	6700
95		小森仮設	西原村小森	7	6707
96		水前寺共済会館	中央区水前寺	2	6709
97		熊本学園大学社会福祉学部V	熊本市中央区	1	6710

*10月20日、熊本「お茶わんプロジェクト」の活動は終了しました。

今後は、仮設住宅の生活支援活動・元気アップ活動に移行します。





熊本地震・被災状況アンケート(表)

【熊本地震・被災状況アンケート】

昨年4月の熊本地震から早や9か月がたちました。「ひとり暮らしを支えあう・でんでん虫の会」では、皆さんの被災状況をお聞きし、今後の支援活動に生かすためにアンケートを実施することになりました。お忙しい中、お手数をおかけしますが、記入いただき同封の返信用封筒を2月14日までに投函ください。記入や返信がむずかしい方は電話による返答もできますので、遠慮なくお申し出ください。

I. 地震による被害について ※該当する枠に○印を記入願います。

①：被害の内容について簡単に教えてください

<input type="checkbox"/>	全壊	<input type="checkbox"/>	半壊	<input type="checkbox"/>	一部損壊	<input type="checkbox"/>	損壊無し	<input type="checkbox"/>	わからない
--------------------------	----	--------------------------	----	--------------------------	------	--------------------------	------	--------------------------	-------

②：避難所には行きましたか？

<input type="checkbox"/>	行った	<input type="checkbox"/>	行かなかった
--------------------------	-----	--------------------------	--------

③：避難所へ行かれたきっかけや理由を簡単に教えてください

④：震災後、転居されましたか？

<input type="checkbox"/>	転居した(仮設)	<input type="checkbox"/>	転居した(みなし仮設)	<input type="checkbox"/>	転居した(その他)	<input type="checkbox"/>	転居しなかった
--------------------------	----------	--------------------------	-------------	--------------------------	-----------	--------------------------	---------

II-1. 被災直後、役立った物や役立った事、その他これまでに困ったことについて

①：被災時、防災セットはありましたか？

<input type="checkbox"/>	無	<input type="checkbox"/>	有(自分で作ったもの)	<input type="checkbox"/>	有(でんでん虫の会配布分)	<input type="checkbox"/>	有(でんでん虫の会以外の配布分)
--------------------------	---	--------------------------	-------------	--------------------------	---------------	--------------------------	------------------

②：防災セットは役立ちましたか？その他に役に立った物や役に立った事があれば教えてください。

③：アパート入居や入院の際の身元引受人(緊急連絡先)保証人について。

<input type="checkbox"/>	無	<input type="checkbox"/>	有(でんでん虫の会)	<input type="checkbox"/>	有(でんでん虫の会以外)
--------------------------	---	--------------------------	------------	--------------------------	--------------

④：現在の生活はひとりですか？

<input type="checkbox"/>	ひとり	<input type="checkbox"/>	()人(同居者： (例)長男・母・妻・子・友人・仲間
--------------------------	-----	--------------------------	--------------------------------

***裏面も記入ください。**

熊本地震・被災状況アンケート(裏)

⑤：被災後の生活は、不安ですか？

<input type="checkbox"/>	不安はまったく無い	<input type="checkbox"/>	少し不安だ	<input type="checkbox"/>	不安だ	<input type="checkbox"/>	とても不安だ
--------------------------	-----------	--------------------------	-------	--------------------------	-----	--------------------------	--------

⑥：不安なことや困ったことがあれば教えてください

Ⅲ. これからのことについて

①：今後必要な支援(各種情報を含む)があれば教えてください

②：復興に向けて期待することをいくつか教えてください

③：近所付き合いについて

<input type="checkbox"/>	既に付き合いがある	<input type="checkbox"/>	今は無いが今後行いたい	<input type="checkbox"/>	必要ない
--------------------------	-----------	--------------------------	-------------	--------------------------	------

④：災害等のための備えについて

<input type="checkbox"/>	既に備えている	<input type="checkbox"/>	今は無いが今後備えたい	<input type="checkbox"/>	必要ない
--------------------------	---------	--------------------------	-------------	--------------------------	------

⑤：④について必要と思われるものをいくつか教えてください

⑥：支援団体等の支援を受けましたか？またその支援とは？

<input type="checkbox"/>	受けてない	<input type="checkbox"/>	受けた(内容: _____)
--------------------------	-------	--------------------------	-----------------

お名前： _____ 『でんでん虫の会』の会員ですか？：はい・いいえ

ご協力ありがとうございました。

集計結果は、後日報告書にまとめさせていただきますが、お名前は公表いたしません。

新規相談内容及び相談経路について①

【支援団体からの新規相談 66件】

- 4月25日 被災したアパートの補修や荷物搬出など依頼多数
- 4月16日 災害地支援団体より、初動対応のアドバイスを受けた
- 4月20日 阪神の被災者支援者より、お茶碗プロジェクトのことで連絡あり
- 4月23日 WAM(福祉医療機構助成金)より助成金申請締め切り延期の連絡あり
- 4月25日 学生ボランティアから協力の申し出あり
- 4月25日 グリーンコープより、親子映画会実施の連絡あり
- 4月27日 福祉施設より、支援米が届いているので取りに来るようへの依頼あり
- 6月 1日 新聞を見た方より、食器を提供したいので、取りに来てほしい。
- 6月 2日 奈良からボランティアで来ている方より、支援を手伝いたい。
- 6月 4日 合志市で地域のお祭りを開くので、お茶碗を提供してほしい。
- 6月 5日 県外の方より、家を建て直すので瓦を提供したい。
- 6月 7日 家電製品が壊れたので、中古品を譲ってほしい。
- 6月 8日 被災地障害者支援センターより、アパート入居の身元引受人になってほしい。
- 6月18日 クラウドファンด์主催者から、説明会参加の依頼
- 6月25日 被災者支援団体より、映画会場でのお茶碗配布の希望
- 6月29日 お茶碗プロジェクト協力者より、各種打合せの電話多数
- 7月 2日 お茶碗プロジェクト益城飯野
- 7月 3日 お茶碗プロジェクト御船
- 7月 6日 生活困窮者支援団体より、転居費用の見積もりのことで依頼
- 7月 7日 市外の相談支援事業所より、障がい者の有料老人ホーム入居保証人依頼
- 7月 9日 お茶碗プロジェクト甲佐
- 7月13日 子ども食堂の方より、仮設住宅でのお茶碗配りについて相談
- 7月15日 県外の方より、新聞に記事が載っていたので話を聞きたいとの依頼
- 7月16日 お茶碗プロジェクト合志市
- 7月17日 お茶碗プロジェクト東区役所
- 7月18日 お茶碗プロジェクト甲佐
- 7月19日 仮設住宅管理人より、お茶碗配布に携わったボランティアの態度について苦情あり
- 7月19日 お茶碗プロジェクト南阿蘇、西原村
- 7月20日 障がい者相談支援センターより、保証人死亡のため契約更新できない方の支援依頼
- 7月22日 奈良の女性団体より、バザーでお茶碗等売り益金を送金したい
- 7月27日 生活困窮者支援団体より、全壊家屋からの転居者の寝具提供依頼
- 7月31日 お茶碗プロジェクト益城テクノパーク
- 8月 1日 障がい者相談支援センターより、知的障がい者の就労支援協力依頼
- 8月 4日 県外の方より、お茶碗を直接持参したい。
- 8月 5日 地域包括支援センターより、アルコール依存症のケア研修会のための協力依頼
- 8月 7日 お茶碗プロジェクト城南町
- 8月 7日 県職員より、お茶碗や食材提供の申し出を受けた
- 8月20日 仮設住宅より、お茶碗配布の箱内に傷んだ食料品が入っていたことに対する苦情
- 8月26日 県外の方より、コンサートを開くので招待状を送りたい
- 9月 3日 被災地障害者支援センターより、知的障害者の支援依頼
- 9月12日 被災地障害者支援センターより、知的障害者の身元引受人依頼
- 9月16日 相談支援センターより、被災された視覚障害者の外出支援について相談
- 10月 3日 益城町の薬剤師より、お茶碗配布協力の申し出
- 10月 7日 災害地障害者支援センターより、パニック障害女性の身元引受人依頼
- 10月 7日 相談支援センターより、知的障害者の就労保証人依頼
- 10月12日 相談支援事業所より、県外から転居される方の身元引受人の依頼

新規相談内容及び相談経路について②

- 10月19日 市民活動支援センターより、衣類・茶碗引き取りの依頼
- 10月19日 環境活動団体より、活動費助成金の申請をするようにとの依頼
- 10月24日 相談支援事業所より、転居される方の身元引受人の依頼
- 10月28日 相談支援事業所より、難病患者の移動支援依頼
- 10月31日 認知症支援団体より、手術を受けられた方の居室の管理依頼
- 11月 8日 生活協同組合福祉活動委員会より、会の活動についての研修訪問依頼
- 11月 8日 相談支援事業所より、ギャンブル依存症の方の金銭管理依頼
- 11月19日 障害当事者団体より、就労フェアへの参加など協力依頼
- 12月 4日 相談支援団体より、地震以来アパートなどを転々としている人への支援依頼
- 12月 9日 福祉事業所より、逝去後の片付によるエアコンや家財などの受入依頼
- 12月20日 路上雑誌販売者より、家屋が半壊し就労困難な購読者の相談支援依頼
- 1月30日 市役所からの紹介を受け、亡くなった母親の古着を提供したいとの相談
- 2月 2日 生活困窮者支援団体より、社協からの借入金保証人に対する督促について相談
- 2月 7日 被災者支援団体からの情報で、路上生活者の支援経験者より就労相談
- 2月22日 支援の会からの紹介、アパート入居のための身元引受人の依頼
- 3月 2日 生活自立支援機関より、アパートから無断退去された元野宿生活者への支援依頼
- 3月 9日 生活困窮者支援団体より、野宿生活を始めた方の支援依頼
- 3月10日 刑余者支援団体より、退所後の金銭管理についての支援依頼
- 3月11日 北九州の団体より、会の活動について講演の依頼
- 3月13日 障害者相談機関より、みなし仮設住宅への入居について相談

【本人・家族からの新規相談 61件】

- 4月11日 本人より骨折で入院するので、保証人の依頼
- 4月15日 精神科入院者より、地震で病院が閉鎖になり退院することになった
- 4月16日 地震のため住めなくなったので、アパートを探してほしい
- 4月21日 被災したアパートからの荷物搬出など依頼多数
- 4月24日 入院患者より、被災アパートからの荷物搬出依頼
- 4月30日 避難所で精神障害が悪化し、県外の実家にタクシーで帰省した方の家族から相談の電話あり
- 6月 6日 宅急便より、連日お茶碗の納品場所について問合せあり。
- 6月 7日 みなし仮設入居にあたり、身元引受人となってほしい。
- 6月 7日 体育館に避難している方より、家主がアパートを壊すので探してほしい。
- 6月14日 会員より、離島から出稼ぎにいられている方の支援依頼
- 6月24日 精神疾患本人より、グループホームから入院したいとの相談
- 7月 1日 避難所からアパート入居予定の方より、元住宅が取り壊されたとの知らせ
- 7月11日 発達障害者より就労希望があり、就労支援ワーカーと相談しながら進めるを確認
- 7月13日 精神疾患を抱えた方より、転居した後の連絡など今後の支援について依頼
- 7月16日 仮設住宅の方より、新聞にお茶碗配りのことが載っていたのでお願いしたい
- 7月18日 一軒家にお住いの女性より、ブロック塀の片付依頼
- 7月20日 お茶碗プロジェクト久木野
- 7月20日 身体障がい者より、教会牧師からの紹介で、地震後の自宅庭の片付依頼
- 7月22日 精神科に入院中の方より、新聞を見たので退院後おしゃべり会に参加したい
- 7月22日 会員より、自分の友人が地震で転居するので身元引受人となってほしい

新規相談内容及び相談経路について③

- 7月23日 知人の歌手が、チャリティコンサートを開くのでお茶碗を提供してほしい。
- 7月25日 地震でアパートが解体され私財が処分されたので、弁護士を紹介してほしい
- 8月 2日 会員より、同じアパートの友人宅を訪問したが返事が無いので警察に連絡し死亡との連絡
- 8月 3日 身体障がい者より、市外から市内へ転居予定なので今後のために連絡した
- 8月 3日 精神障がい者より、地震でエアコンが壊れ熱中症などで救急搬送された
- 8月 9日 ギャンブル依存症の家族より、生活全般についての相談依頼
- 8月13日 精神障がい者より、年金だけでは生活が苦しく生活保護申請をしたいが迷っているとの相談
- 8月18日 身体障害者より、室内に段差があり上がれないので解消したいとの依頼
- 8月19日 避難所退去者より、高齢家族のみなし仮設入居について相談
- 8月21日 高齢者より、衣装ケースに布団を置きベッドにしたが壊れたので厚いベニア板を購入したい
- 8月22日 新聞を見た方より、マンション入居契約更新のことで相談
- 8月23日 県外から熊本に戻ってきたが、家の中がゴミ屋敷になり入院も進められているとの相談
- 8月29日 視覚障がい者より、みなし仮設住宅から買い物などの外出支援依頼
- 9月 2日 高齢者の方より、草取りと木の剪定依頼
- 9月 5日 中年の男性より、漢字教育など学習支援の依頼
- 9月 7日 大規模半壊にあった方より、みなし仮設住宅入居のことで相談依頼
- 9月15日 みなし仮設に入居された方より、年金生活が苦しいとの相談
- 9月27日 仮設住宅入居者より、心筋梗塞他の病気など色々な不安の訴え
- 9月27日 震災後亡くなった夫に表彰状が届いたので、写真を撮ってほしい。
- 9月27日 仮設住宅入居者より、映画上映、不在者のポスト、駐車場のことなど意見あり
- 9月28日 みなし仮設団地に転居した方より、亡くなった後のことが心配との相談
- 9月30日 住宅取壊に伴う退去高齢者の、有料老人ホーム等の物件探しなど支援依頼
- 10月 5日 リウマチ疾患の方より、猫の薬を買ってきてほしいとの依頼
- 10月11日 地震後転居し、孤立された高齢女性の交流支援依頼
- 10月15日 通帳を預けている知人宅へ行くための交通費支援の依頼
- 10月19日 高齢者夫婦より、解体する自宅からの荷物搬出・処分依頼
- 11月 9日 保護受給者より、住宅契約更新に伴う保証人の依頼
- 11月11日 子息より、別世帯化による保護受給に伴う母親の金銭管理等の依頼
- 11月15日 会員から紹介を受けた方より、生活費が無くなったので支援してほしいとの依頼
- 11月15日 被災後ケアハウスへ入居される方より、インフォーマル支援の依頼
- 11月22日 関東に住む甥より、夫を亡くした伯母のケアハウス入居等支援依頼
- 12月 2日 A型作業所へ就労される方より、緊急連絡先の依頼
- 12月30日 会員より、隣室の生活音が無いとの連絡で警察へ通報したところ室内で死亡
- 1月 5日 相談支援センター前を通りかかった刺青男性からの就労支援の相談
- 1月 7日 市役所からの紹介で、県外から戻ってきた高齢女性からの生活支援依頼
- 1月12日 会員より、兄弟の生活保護申請に伴う金銭的な支援についての相談
- 1月26日 知らない地域での生活でうつ症状を抱えたみなし仮設入居者からの相談
- 2月 6日 家族を抱えて県外から来た方より、アパート入居の保証人について相談
- 2月20日 会員からの紹介、年金生活だけでは苦しいので県北で保護申請をしたいとの相談
- 2月22日 会員より、トラブルに巻き込まれ身を隠す場所を探している方についての相談
- 3月12日 パンフレットを見て、脳梗塞で車いす生活、妻を半年前に失くし淋しいので入会したい

新規相談内容及び相談経路について④

【地域包括支援センターからの新規相談 17件】

- 4月 1日 地域包括より、認知症の夫婦の金銭管理依頼
- 4月22日 地域包括より、在日中国人宅の片付依頼
- 4月28日 地域包括より、地震で要転居となった高齢者女性のアパート探しの依頼あり
- 7月18日 地域包括支援センターより、ひとり暮らしの方の支援相談を受けた
- 8月31日 地域包括支援センターより、身寄りのない高齢者の入院保証人の依頼
- 9月 8日 地域包括支援センターより、高齢母子の罹災証明等の依頼
- 10月28日 地域包括より、退院後の施設入居のための身元引受人依頼
- 12月 1日 地域包括より、転居希望者の入院保障の依頼
- 12月16日 地域包括より、入院の際の保証人の依頼
- 12月19日 地域包括より、取り壊し予定団地からの転居支援の依頼
- 1月 5日 地域包括より、独居高齢者の通院等の同行支援依頼
- 1月10日 地域包括より、独居高齢者の手術に伴う保証人などの支援依頼
- 2月 1日 地域包括より、預貯金管理の悩みと難病を抱えた高齢女性への支援相談
- 2月13日 地域包括より、中古の小型冷蔵庫の受取依頼
- 2月16日 地域包括より、骨折後入院拒否している高齢者の支援について相談
- 3月 6日 司法書士より、被後見人の子息のアパート契約更新について依頼
- 3月10日 地域包括より、独居高齢者の金銭管理の支援依頼

【医療機関からの新規相談 17件】

- 6月20日 病院の相談員より、ひとり暮らしの方に対する退院後の生活支援依頼
- 7月11日 医療機関より、独居高齢者の家屋処分に伴う家具の引き取り依頼
- 7月21日 医療機関より、視力低下の方の通院支援の依頼
- 8月 6日 医療機関より、野宿生活中のアルコール依存症患者について支援依頼
- 9月 5日 精神科病院の相談員より、金銭管理の支援依頼
- 9月 9日 医療機関からの紹介で、地震で入らなくなった布団を押入れに詰めてとの依頼
- 10月 5日 医療機関の連携室より、退院後の支援依頼
- 10月24日 精神科医療機関より、県外から転居された方への支援依頼
- 12月 5日 医療機関のソーシャルワーカーより、高齢女性の手術保証人と立会人の依頼
- 12月26日 医療機関より、大腿骨骨折した高齢男性の転院に伴う身元引受人の依頼
- 1月 4日 医療機関より、高齢女性の手術に伴う立ち会い(待機)の依頼
- 1月 5日 精神科医療機関より、ギャンブル依存症患者の退院後の金銭管理依頼
- 1月17日 医療機関より、翌日の高齢女性の手術に対する医師の説明同席の依頼
- 2月 8日 医療機関より、難病患者の退院後の居宅についての支援依頼
- 2月14日 医療機関より、院内倫理委員会への出席依頼
- 2月20日 医療機関より、ゴミ屋敷生活者の片付などの支援について相談
- 2月27日 精神科医療機関より、薬物依存症患者の退院後の金銭管理相談

新規相談内容及び相談経路について⑤

【不動産・家主からの新規相談 15件】

- 4月20日 家主より、地震でアパートが壊れたので転居を進めるよう依頼あり
- 4月21日 家主より、地震のため転居依頼を受けた当事者からの依頼多数
- 4月25日 家主より、地震のため転居依頼を受けた当事者からの依頼多数
- 6月14日 不動産会社より、野宿生活をされている方の入居支援の相談依頼
- 6月16日 不動産会社より、風呂水の出っぱなしによる階下の方からの苦情
- 6月21日 不動産会社より、入居手続支援依頼
- 6月21日 不動産会社より、地震による高齢者の転居支援依頼
- 8月 8日 不動産会社より、帰国した外国人留学生の遺留品処分について相談依頼
- 10月17日 不動産業者より、地震による転居される高齢者の身元引受人依頼
- 10月25日 不動産業者より、地震による転居される高齢者の身元引受人依頼
- 11月 7日 不動産業者より、地震による転居される高齢者の身元引受人依頼
- 11月26日 家主より、入居者が交通事故の被害に遭ったので支援してほしい
- 12月 1日 不動産業者より、年内取り壊しのため退去する人への物件情報提供依頼
- 2月20日 不動産業者の紹介で、親の逝去後の遺品整理について相談
- 2月28日 不動産業者より、入居後の身元引受人の依頼

【行政機関からの新規相談 15件】

- 4月13日 区役所の紹介を受けて住宅の身元引受人の依頼
- 4月15日 市民活動支援センターより、地震のため施設が使えないとの連絡
- 6月10日 避難所より、聴覚障害者で野宿生活されていた方の身元引受人の依頼
- 6月28日 警察より、金銭管理の利用者より被害届があったので、状況確認したい
- 7月 4日 福祉課より、避難所におられる野宿生活者で聴覚障害者のアパート探しの依頼
- 9月14日 保健師より、精神患者の通院同行の依頼
- 10月 3日 保健師より、精神科への通院や買い物同行の依頼
- 11月16日 精神保健福祉課より、まちづくり推進課主催の被災者支援イベントの案内依頼
- 12月 9日 市の紹介を受けて、背広など中古衣類の受入依頼
- 12月27日 県の被災者支援センターより、東京からのボランティア2週間受入の依頼
- 12月28日 福祉課の紹介を受け、うつを抱えたポッチさんからのさまざまな相談
- 1月 5日 介護保険課より、ゴミ屋敷の高齢男性に対するケア会議出席の依頼
- 2月15日 高齢福祉課より、地震で取り壊された後、車中生活をされている脳梗塞患者の支援依頼
- 3月 1日 県精神保健室からの紹介、県南で孤独・ひきこもり生活者からの相談
- 3月13日 市精神保健課より、人恋し願望が強い方への支援依頼

新規相談内容及び相談経路について⑥

【居宅介護支援事業所(ケアマネ)からの新規相談 14件】

- 4月 1日 デイサービス事業者より、脳梗塞で足の不自由な方の買い物支援依頼
- 4月20日 居宅ケアマネより、担当されている方の被災状況について報告と対応の相談あり
- 8月17日 居宅介護支援事業所より、退院後入居時の身元引受の依頼
- 8月26日 居宅介護支援事業所より、複雑な家族の方の手術立ち会いの相談
- 9月15日 居宅介護のケアマネより、高齢女性と息子との別居支援について相談
- 9月20日 居宅介護のケアマネより、脊損の夫と視覚障害の妻への支援について相談
- 12月 5日 居宅支援事業所より、身寄りのない方の入院時の保証人依頼
- 1月 5日 居宅介護より、高齢女性の身元引受人など生活支援の相談
- 1月20日 居宅介護より、視覚聴覚障害高齢女性の転院後の身元引受人等生活支援依頼
- 2月14日 居宅ケアマネより、身寄りのない方の入退院支援の依頼
- 2月14日 居宅ケアマネより、入退院時の支援について相談
- 3月 6日 居宅ケアマネより、妄想徘徊がひどい方への支援依頼
- 3月 7日 居宅ケアマネより、ひとり暮らしの方への外出同行などの支援依頼
- 3月 9日 居宅ケアマネより、独居高齢者の生活支援について相談

【保護課からの新規相談 7件】

- 4月11日 保護課のケースワーカーより金銭管理の依頼
- 4月12日 保護課のケースワーカーより、うつの方の住宅問題について相談依頼
- 4月15日 保護課のケースワーカーより、お金を紛失された方の生活支援について相談依頼
- 6月20日 保護課より、保証人が亡くなられた方への支援について相談
- 7月29日 保護課のケースワーカーの紹介、家族無く病気がちなので亡くなった時のことが心配
- 1月27日 保護課より、半壊した住宅からの転居に伴う身元引受人の依頼
- 2月 7日 保護課より、ギャンブル依存症患者の金銭管理の依頼

【その他からの新規相談 14件】

- 6月 8日 県外の窯元より給食用の食器3点セットを200セットほど提供したい。
- 6月15日 報道機関より、お茶碗プロジェクトについての取材依頼
- 7月 7日 報道機関より、ひとり暮らしの方への震災対応についての取材
- 8月24日 新聞編集者より、高齢者のひとり暮らしについての座談会司会依頼
- 8月24日 通行人より、足をくじいて歩けない人がいるので病院などの世話をしてほしい
- 9月 6日 報道機関より、避難所の閉鎖に伴う取材の依頼
- 9月16日 大学より、ひとり暮らし支援について学生に対する特別講義の依頼
- 9月21日 知人からの紹介、父母がいなくなりひとり暮らしになり今後のことが不安との相談
- 9月22日 引っ越し業者より、転居手伝いのアルバイト紹介の依頼
- 11月 4日 ケアホームより、入居予定の高齢女性の保証人依頼
- 11月21日 大学教授より、みなし仮設入居者支援イベントへの協力依頼
- 12月22日 報道機関より、伴走型支援市民ボランティア養成講座の取材依頼
- 2月 2日 保護受給者の知人より、金銭管理のトラブルを抱えた本人に対する支援の相談
- 2月17日 雑誌編集者より、震災後特集への広告掲載依頼

第1回連携委員会の記録①

「新たな居場所づくり」のための、

医療・福祉・生活支援団体による連携委員会

第1回委員会記録

日 時 2016年9月21日(水)18時30分～20時30分

会 場 熊本中央YMCA

出席者 川崎 孝明(尚綱大学短期大学部) 神保 勝巳(熊本YMCA)
今村 和八(熊本市社会福祉協議会) 小出 照幸(ふくし生協)
高木 聡史(心をつなぐよか隊ネット) 中村倭文夫(社会福祉法人グリーンコープ)
日隈 辰彦(ヒューマンネットワーク熊本) 水野 直樹(熊本県防災士協会)
宮原浩一郎(地域包括支援センター) 山川李好子(子ども食堂、託麻東校区)

陪 席 船本満幸、山本照文、永田貴子、吉松裕藏

開 会 船本満幸代表より、今年はやんでん虫の会にとって実践の年であり、今後の会の継続のためにご支援とご協力をよろしくお願い致しますとの、挨拶・趣旨説明がなされた。

委員自己紹介

委員長選出 川崎孝明さんに委員長をお願いしたいとの提案が事務局よりあり、委員一同了承した。

協 議

議題1 新たな居場所には、どのような機能が必要か

川崎:本日の議題「新たな居場所作りについて」皆さんからのご助言願います。

吉松:毎週水曜日には上通りYMCAに30人ほど集っているこのおしゃべり会をもう少し発展的に内容等を充実させながら実施したい。子供から高齢者まで幅広く集える交流と居場所作りを通じて、場の提供をしたい。現在はおしゃべり会をあいぽーとが使用不可のため、上通YMCAで実施中であるが、新しい場所を週3回程度で実施したい。

- ・おしゃべり会だけでなく魅力ある内容でないと男性の場合は中々出てきてくれない。校区では月に1回いきいきサロンを実施していて歌を歌ったりしている。
- ・「食」というのが大事である。
- ・子供食堂の運営について、よか隊ネット、婦人会が運営している。子供は無料で大人は一律300円である。
- ・無償で場所を提供して貰える場所があれば巡回しながらでも「食」の提供が可能。
- ・区ごとに巡回しながらやる。バスなどで買い物に連れていくことも重要なことである。
- ・被災地でのサロン活動を活発にやってはどうだろうか。
- ・東京では夕方に放課後等デイサービスを実施して運営事業の資金確保をしている。
- ・熊本は移動がとても不便である。送迎バスとかの利用が出来れば良い。
- ・一人暮らし(被災地)で孤立をさせないための取り組み(孤独は特に男性に多い)方達を巻き込んで取り組みを実施するにはどうやっていけばいいのか。
- ・男性の単身者も同じように孤立しがちである。
- ・居場所を作ったとしても出てこない方達がいるため、どうやってその方達を引き込んでいくのか。単に「食」だけをしてくれといっても中々来てくれない。
- ・居場所を複数提供しても来ない方達がおそらく多いだろう。
- ・男性は1回来たとしてもその1回で足が止まってしまう。
- ・移動の手段がない方が非常に多く、バスなどがなければ中々来てくれないだろう。
- ・昔ながらの「遊び」などをお年寄りが子供に教えるなどの活動があればいい。
- ・女性に対しては子育ての相談などにも乗るのもいい活動である。

第1回連携委員会の記録②

議題2.新たな居場所は、どのような地域がいいか？

- ・社会福祉法人の施設の一角を借りることも視野に入れてはどうだろうか。
- ・でんでん虫の会近くでいうとヴィラ九品寺1階にフリースペースがある。
- ・一軒家ないし空き家を賃貸で借りて実施をしていくことも考えられる。
- ・益城地域仮設住宅での居場所作りにも取り組めて行けたらいい。
- ・生活困窮者に限定しない事業を実施したい。食べる、作るということは非常に大事である。
- ・老人も栄養失調になりがちのために「食」はとても重要なテーマである。
- ・4月以降のでんでん虫の会継続のために事業をやったほうがいいのか。
- ・収益事業を実施しているところと組んだほうがいいのか。
- ・来年度からの家賃が出る程度に利益が出るとすごくいい。
- ・この仕事は行政では手をつけられない仕事なため大事な仕事である。
- ・社会福祉法人の場所提供は現在活発なために施設の一角を借りることが、出来るとすれば非常にありがたい。
- ・スタッフだけでなくそこに関わる利用者も関わられるような事業にしてほしい。
- ・男性を引き出すために楽しみや役割等を提供することも大切である。
- ・地域で余った麻雀台などを出して男性を引き出すのはどうだろうかと考える。
- ・でんでん虫の会を後押ししてくれる様な協力者が欲しい。
- ・富山型デイサービスの視察もあるため、それを参考にしてもいいのかもしれない。

まとめ

たくさんのご意見をありがとうございました。今回の第一回委員会で出た意見の数々はでんでん虫の会の今後の方向性を決めるための重要な課題が数多く出た。本委員会の件では、「食」をテーマにした意見が数多く上がったのと「男性」を実際に引き出す時にはどうやったらいいのか、場所はどいったところでどのような形式でやったらいいのかという意見が数多く上がった、ここについては実施前、実施後とともによく検討をしなければならない課題である。高齢者から子供まで来るような地域の場と居場所作りを目指すための貴重な意見を拝聴し、検討出来る極めて重要な第1回委員会であった。多忙な時間の中参加して下さいました委員の皆様へ感謝致します。

次回委員会:10/18日(火)18時半より中央YMCAにて開催予定

第2回連携委員会の記録①

第2回委員会記録

日 時 2016年10月18日(火)18時30分～20時30分

会場出席者:第1回に同じ

報 告

1. 前回委員会報告: 別紙資料に基づき、前回委員会での協議内容を確認した。
2. 富山視察報告:川崎委員長及び永田貴子スタッフより富山視察報告がなされた。
3. お茶碗プロジェクト報告:5月から開始し、全国から寄せられた6,500箱すべてを県内の仮設住宅などへ配布完了した。

協 議 1. 新たな居場所づくりについて

- ・新たな居場所として「おしゃべりサロン」を11月よりオープン(月・木10～15時:飲み物のみ100円、料理を作る時は要予約で昼食300円、スタッフ3人)。よしむた総合診療所内に無料で場所を提供して頂いた。保健所に問い合わせたところ利用者さんと一緒に料理を作るようにすると給食扱いで良いとのこと。チラシを自治会長に持っていき各町内で回覧してもらったり、熊日の小さな情報誌に掲載して広報する。
- WAMの活動助成の中でサポートしながらノウハウを参考にさせてもらい、新たな居場所での活動に取り入れる。
- ・でんでん虫の会の現事務所があり、社会資源に囲まれている九品寺に拠点をつくっていくのではないのか。専用の場所としてではなく、社会福祉法人と連携して場所を借りることも視野に入れると良い。
- ヴィラ九品寺に「おしゃべりサロン」のチラシを活動の方向性の例として説明し、おしゃべり会会場などに使わせてもらえるかの打診をする。
- ・熊本市に限らないのであれば、YMCAで安く場所を確保させてもらい、地域ささえあいセンターを益城町基山と御船につくるので、ふれあいカフェなどを定期的実施してもらえれば場所確保の資金を必要としない活動拠点を提供することができる。
- テクニサーチ仮設への定期訪問と合わせて考えていくと可能性が広がる。実際に、スタッフだけではなくでんでん虫の会の会員さんが話を聴きに行く立場で活動している。会員さんの活躍の場を広げるという意味でも是非連携させていく意義がある。また、伴走型支援市民ボランティア講座の受講者をそこにつなげていくこともできる。
- ・社会福祉法人へは、居場所提供の提案をしやすいと思われるが、食を中心として考えた調理場のことを考えると連携できるところが少ないのではないのか。
- 場所を提供してもらえるところで可能なことをやっていくのが良い。
- ・でんでん虫の会が他の団体や関わる方々を支援するというスタイルで、協力者と拠点を増やすと広がりが出るのではないのか。
- ・長期にわたる拠点となると、自分たちの施設をもった方がいいように思う。
- 施設を持つ前に、まずは軒先を借りることからと考えている。
- ・自分たちは障害の地域支援を行っているが、食となると特にしっかりとした居場所を確保した方が自由がきくだろう。足元を固めてということもあるが、どこかで踏み出した方がいいのではないのか。
- ・でんでん虫の会を知ってもらうために連携をしてもらって告知の仕方をうまくしていくとよいのでは。特に支援がひと段落して日頃の関わりが薄くなった方々への瓦版は必要。自分たちも退所者が一人になった後に孤独で生活が安定なくなってしまうことを防ぐためにでんでん虫の会につないでいくことができればよいと感じる。一番困っている人たちは、方法論ではなく「ただそばにいてほしい」というのを痛感している。そのためにも、拠点に来てくださいというより、出かけて会いに行くという支援スタイルも必要と思われる。自他の団体の広報誌にでんでん虫の会の今後の活動を掲載していくと認知度が上がり協力者も増やせると思われる。
- ・ふくし協では、「いこいや」という居場所をつくって活動していたが、福祉制度事業が入ってきてからはそれで手がいっぱいになり地域支援が出来なくなったというのが現状だ。

第2回連携委員会の記録②

2. 講演会について

・大阪の「北芝」は、人権団体をもとにしてできたネットワークだが、助成金申請のコツをコンサルティングしてもらえるところをはじめ、地域通貨を売ることによって関係性をつくりやすく寄付金を募りやすい、また、高齢者と子供の思いが循環する面白いモデルとなる活動を行っているため、未来志向のゲストとして呼ぶにふさわしいところと思う。ぜひ、今回の講演会だけで終わらせずに関係をつくっていくことを勧める。

テーマは「暮らしづくりネットワークについて～大阪北芝の事例に学ぶ」とし、会場は尚絅大学にお願いすることとなったが、日程については、2017年2月の大学入試の日程と講師の都合を確認して、次回決定することとした。

3. 伴走型支援市民ボランティア養成研修について

12月21日(水)～22日(木)実施に向けNPO法人ホームレス支援全国ネットワークの協力を得ながら進めているが、会場未定について中央YMCAの提供可能との話が出され、準備を進めていくことを確認した。

4. 仮設団地における孤立防止について

2017年度の事業として、益城テクノの大型仮設団地における孤立防止とまちづくりワークショップに組みたいとの説明がなされた。

次回委員会:11/14日(月)18時半より中央YMCAにて開催予定であることを確認し、閉会。

第3回連携委員会の記録①

第3回委員会記録

日時 2016年11月14日(月)18時30分～20時30分

会場出席者:第1回・第2回に同じ

協議 1. 新たな居場所づくりについて

1) ヴィラ九品寺との連携

- ・ヴィラ九品寺の荒瀬事務局長から、全面的に協力させて頂きたいとの言葉を頂いた。コミュニティスペースの場所は貸して頂けることになったし、4Fの会議室も是非活用して頂きたいとおっしゃっていただいている。
- ・ヴィラ長嶺では月一回サロン、九品寺へは緊急避難時のSOSサービスなどをさせていただいていたので、今回九品寺との連携が実現できたのはよかった。震災支援や介護保険の限界があって行政で受入れが大変なことになってきている昨今、このようなNPOの活動はとても大事である。
- ・おしゃべりサロンは、病院だから問題が出てきた足踏み状態である。インフルエンザの時は閉鎖になったり、大きな声でしゃべれなかったりという壁が出てきた。新しい所をみつけている。広い家で一人暮らしをしている高齢者のお宅を利用することも考えて民生委員さんにさがしてもらっている。
- ・でんでん虫の会だけではどんな団体であるかわからないので、ヴィラ九品寺や大学などとして連携しての活動は、参加者へ安心感を与えることが大きい。

2) 「みんなの家(仮称・田中ビル)」の活用

- ・高齢者に限らず幅広い年齢の方々などにとっての居場所が作れると意味があると思う。まずは、おしゃべり会のようなことからスタートしたい。
- ・地震の後、みなし仮設福祉避難所を異例な形で作った。選べない状況で無理やり入らざるを得なかった方々に声をかけて、久しぶりに集まる機会を作ろうかと考えていたところなので、一緒に何かできたらいいと思われる。
- ・地域のたまり場が出来るのは良い。組合員にアンケートをとったら、参加したいが高齢や障がいのため移動が一人で出来ないから行けないという答えが多かった。移動できない人の支援を考えていくことも大事である。スタッフが連れていっただけでは手が回らないので、参加者同士で一緒に行くように工夫できるとよい。
- ・YMCAの場合、月謝や子供たちへの影響などへの配慮で限られることもある。壁がない居場所があるのはいいこと。
- ・益城や御船の固まっているところを震災支援しているが、どこにみなし仮設があるかわからないのが現状なので、互いに連携していくとよいと考える。
- ・おしゃべり会を基本にして、次の段階として趣味別にグループ分けをしてはどうか。同趣味だと話が合うと思うので楽しい生きがいが出てくるだろう。また、スタッフとして関わりたい人も出てくるかもしれない。(生きがいプロジェクト)若い人が集まると子育ての悩みに対して高齢者からもよい先輩のアドバイスがもらえる。(世代間交流)
- ・区の支援課で復興便りが出されているので、そこで案内した方がいいと思う。

2. 伴走型支援市民ボランティア養成研修について

- ・4月に発生した熊本地震は、多くの人々の生活に不安をもたらし、住みなれた地域から離れた暮らしを余儀なくされた人々が増えた。また、これまで生活に困窮していた人や、精神的な悩みを抱えた人たちの苦しみもさらに増した。このような状況の中で、ひとりひとりに寄り添い、支援に携わる人材の育成は大きな課題である。
- ・伴走型支援市民ボランティア養成講座を12月21日(水)～22日(木) 熊本中央YMCAジェーンズホールにて開催予定である。
- ・伴走型の受講者を現場につなげて、寄り添いながら支援していく活動を開始し、継続していきたい。

第3回連携委員会の記録②

3. 居場所づくり講演会について

- ・熊本地震は、多くの市民を不安の中に陥れた。特に、大きな不安を抱えておられる身寄りのないひとり暮らしの方々にとっては、人々と交流できる「居場所」が求められる。
- ・お年寄りから小さな子どもまで誰もが安心して暮らせるまちを目指して、日々活動を深めておられる大阪北芝の活動を学びたい。
「ひとりひとりの居場所がある楽しいまちづくり」「ひとりひとりの居場所があるまちづくり」～暮らしづくりネットワーク北芝に学ぶ～と題して、会場：尚絅大学、日程：2017年2月11日に開催したい。
- ・本委員会の翌日に、大阪北芝から熊本に来られるので、講演会の詳細は担当者に会って内容を詰みたい。

4. みなし仮設住宅入居者への支援について

- ・2017年度は、年賀寄附金配分による熊本地震の被災者救助・予防（復興）助成金を申請したい。
- ・よか隊ネットは益城町からの委託を受けて1,500世帯のみなし仮設住宅を回らなければならないので、でん虫の活動を紹介してつないでいくことも必要になってくるだろう。見守り活動に十分に予算が付いていないので、情報をこちらから発信していけば居場所を求めて来る人たちが増えると思われる。今後、予算を付けていくエビデンスをつくっていくためにも活動の価値がある

以上で3回開かれた委員会の最終回にあたり、委員長からの挨拶、代表からのお礼の言葉があり、散会した。

居場所作り講演会チラシ(表)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「ひとりひとりの居場所がある 楽しいまちづくり」

～暮らしづくりネットワーク北芝に学ぶ～

熊本地震は、多くの市民を不安の中に陥れました。特に、大きな不安を抱えておられる身寄りのないひとり暮らしの方々にとっては、人々と交流できる「居場所」が求められます。お年寄りから小さな子どもまで誰もが安心して暮らせるまちを目指して、日々活動を深めておられる大阪北芝の活動を学び、「ひとりひとりの居場所がある楽しいまちづくり」を進めましょう。

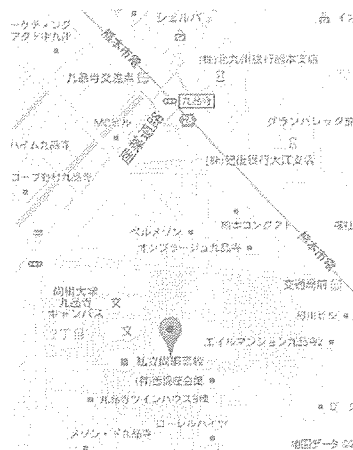
日程：2017年2月11日(土)14時～(受付開始13:30)

会場：尚綱大学九品寺キャンパス 1号館 10階大ホール

講師：NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝の皆さん

主催：NPO法人でんでん虫の会(相談支援センター)

熊本市中央区九品寺 3-3-26 101 096-297-8116



入場料：無料 お願い：駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

- 第1部：**学びのとき** 北芝のお話を聞きましょう。冒頭「でんでん虫の会」の活動を報告します。
- 第2部：**つながりのとき** 地域通貨の実際を体験し、参加者につながります。手作りの名刺で結構ですので、30枚ほど持参ください。
- 第3部：**交わりのとき** 希望者のみ、別会場にて。実費4000円程度、2/7までにご予約ください。

北芝の活動内容

※住民と一緒にアイデアを出し合い事業化(中高年が憩える茶店すずらんの開店、タイマッサージ、手作り石窯プロジェクト、駄菓子屋の楽駄屋などなど。)

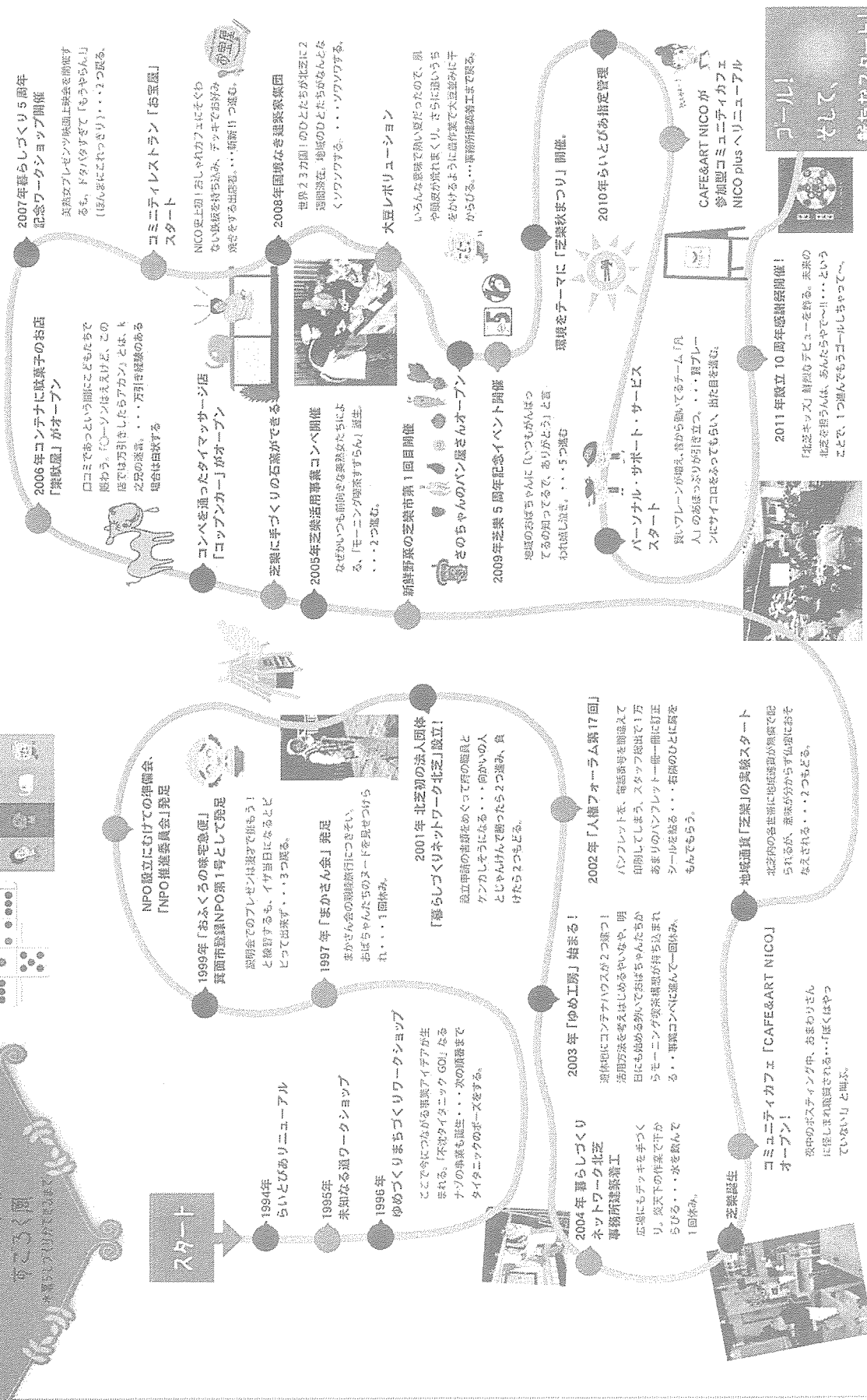
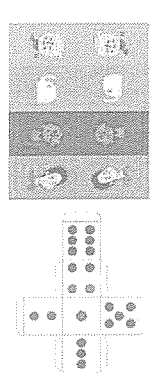
※なんかあそこでは面白いことをやってるぞ(芝楽広場にコンテナを設置してコミュニティレストランや居酒屋を開いたり、であいをつなぐコミュニティマネーである「地域通貨」を発行)

※地域通貨「まーぶ」(「まーぶ」を稼ぎ使いた稼ぐというプロセスを子どもたちの日常に組み込むことで、子どもたちと地域の人とのつながりをつくる) ☞裏面のすぐろくは2011までの歩みですが、その後のお話も楽しみです。

居場所作り講演会チラシ(裏)

おまちづくりの歩み
まちづくりの歩み(継続)
おまちづくりの歩み

スタート



2007年暮らしづくり5周年記念ワークショップ開催
 突然のプレゼンツ映画上映会を開催するも、ドタバタすぎて「もうやらん」(ほんまにこれっさり)・・・2つ戻る。

コミュニティレストラン「お宝屋」スタート
 NICO史初期!おしゃべりカフェにそぐわない環境を持ち込み、テッペンでお好み焼きを出すお宝屋、・・・朝飯1つ進む。

2008年国境なき建築家集団
 世界33カ国!のひとたちから北芝に2週間の滞在、地域のひとたちをなんとなくソワソワする、・・・ソワソワする。

大豆レポリユーション
 いろんな豆でおいしく食べたので、卵や肉類が売れまくる。さらに漬いっちらをかけるように創作菜で大豆畑が立ち上がる。・・・事務所建築着工まで戻る。

2010年らいとびの指定管理
 環境をテーマに「芝菜まつり」開催。

2011年設立10周年感謝祭開催!
 「芝菜まつり」自然の魅力を堪能。北芝の北芝を招くのは、みんなちややで〜!!というこで、1つ進んでもうゴールしちゃって〜

2006年コンテナに駄菓子のお店「楽駄屋」がオープン
 口コミであったという間に子どもたちで賑わう。(〇)ソーンはえげげ、この店では万引きしたらアカン!とは、k先生の運営、・・・万引き経験のある場合は由緒する

コンペを通ったダイマツサージ店「コップンカー」がオープン
 なぜかいつも前向きな建築家たちによる、「モーション」建築家さんらん!誕生、・・・2つ進む。

芝菜に手づくりの石窯ができる
2008年芝菜生活者共済コンベン開催
 なぜかいつも前向きな建築家たちによる、「モーション」建築家さんらん!誕生、・・・2つ進む。

新鮮野菜の芝菜市第1回目開催
 さのちゃんのパン屋さんオープン

2009年芝菜5周年記念イベント開催
 地域のおばちゃんに「いつもがんばってるの知ってるで、ありがたう」と言われ涙し泣き、・・・5つ進む

2010年らいとびの指定管理
 パーソナル・サポート・サービス
 親いづれも増え、誰かから助けてくれるチーム「人」のおほっぶりが引き立つ、・・・親いづれにサイコロをぶっつけてもらい、出た目を進む。

2011年設立10周年感謝祭開催!
 「芝菜まつり」自然の魅力を堪能。北芝の北芝を招くのは、みんなちややで〜!!というこで、1つ進んでもうゴールしちゃって〜

NPO設立に向けての準備会、INPO推進委員会」発足
1999年「おふくくるの味覚大使」箕面市登録NPO第1号として発足
 説明会でのプレゼンが凄くておもしろいと称賛するも、イザ当日になるとビッて出遅れ、・・・3つ戻る。

1997年「おかささん会」発足
 まかささん会の朝晩旅行につきまとい、おぼちゃんたちのスピードを見せつけられ、・・・1団体み。

2001年北芝初の法人団体「暮らしづくりネットワーク北芝」設立!
 設立申請の書類をめぐって行政の職員とケンカしそうになる、・・・向かいの人とじゃけんんで闘ったら2つ進む、負けたら2つ戻る。

2002年「人権フォーラム第17回」
 パンフレット表、電話帳等を間違えて印刷してしまう。スタッフ検出で1万あまりのパンフレット一冊一冊に訂正シールを貼る、・・・右側のひとと隣を間違えてもらう。

2003年「ゆめ工房」始まる!
 2004年暮らしづくりネットワーク北芝事務所建築着工
 遊休地にコンテナハウスが2つ増つ!活用方法を考えはじめのやいなや、明日にも始める勢いでおぼちゃんたちがらまーニング歌謡組が持ち込まれる、・・・事務所コンベンに帰って1団体み。

地域通貨「芝菜」の実験スタート
 北芝内の各世帯に地域通貨が無料で配られるが、悪気が分からず使途におそなえられる、・・・2つ進む。

コミュニティカフェ「CAFE&ART NICO」オープン!
 夜中のボスティング中、おまわりさんに怪しまれ取返される、・・・「ほくほくはやっていない」と叫ぶ。

会だより2016年春号①

でんでん虫の会だより 2016春号

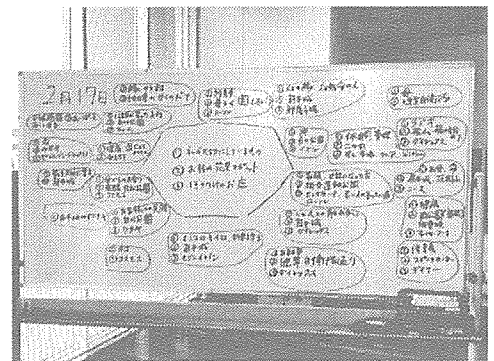


春の訪れを感じる季節になってきましたが、みなさんお変わりございませんか？ 冬の活動報告や春の予定についてご案内いたします。

「おしゃべり会」では 今

会員の皆様お元気でしょうか。三寒四温といますが、今年も気温の差が激しいものの、春がそこまでやってきています。2010年に始まった「でんでん虫の会」も6度目の春を迎えました。

1月からのおしゃべり会には、9週間で249名、平均28名の方が参加され、2月17日の話題は、①私が大切にしているもの、②おすすめの花見スポット、③行きつけのお店でした。あなたはいかが？



「新年会」を開きました

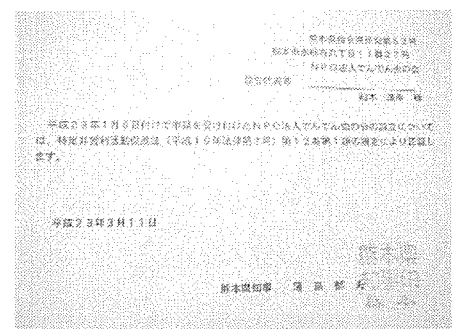


恒例の新年会を今年も開催しました。1月9日(土)午前10時～2時まで、熊本YMCAをお借りし、みんなで料理やもちつきを楽しみました。内容は餅つきに食事会でした30名近くの方が参加しました。1月2月の誕生会も重ねて行いました。



あれから5年

熊本県からNPO法人としての認証が下りたのは、ちょうど東日本大震災が起こった日でした。福島原発から避難・移住されている方々が熊本で生活されています。ご一緒に歩いていければと願っています。

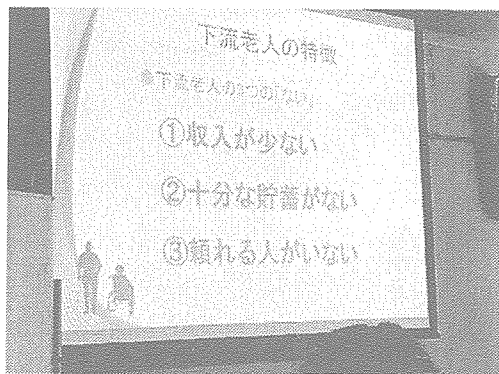


おしゃべり会・交流会の食材費は、グリーンコープ基金の助成で実施しました。

会だより2016年春号②

講演会が開かれました

2月6日(土)午後2時から、ウェルパル大会議室を会場に、「生活困窮者支援と居場所づくり」と題する講演会を開きました。30万冊ベストセラーとなった「下流老人」著者・藤田孝典さんを埼玉からお呼びしたところ、120名を越える市民の方々が来場され、「他人事では済まされない」と、熱心に耳を傾けておられました。



参加者のアンケートより (抜粋)

- ・藤田さん、「普通」の方という良い印象でした。人を巻き込む力がある人がいると物事が動くのですね。
- ・知識があるといざという時に助かる話がたくさんありました。今まで知らないふりしてすごしていましたが、これからは積極的に助け合う人になりたいと思いました。
- ・私は障がい者雇用で働く発達障がい者です。今後、自分が生き抜く上で、老後も幸せにいらしていくために何が必要かつかむことができました。
- ・関係性の貧困という言葉が印象に残りました。貧乏であっても、家族や地域の人、様々な制度とつながりがあれば、幸せに生きていくこともできると学びました。
- ・「子ども食堂」の実施計画中ですが、貧困層に単に食事を供給する事に留まらず制度を利用したり、職業訓練などで貧困生活から脱却支援をする事の大切さも感じました。
- ・子どもが大きくなって独居になり、将来の不安を持ち出しました。ボランティアをやりたいと思っています。地域社会に参加していきたいと思っています。
- ・社会保障制度の活用をもっと、との指摘はその通りと思いますが、前提とする社会保障制度が「劣化」の方向を危惧しています。みんなで社会を替えてゆく方策を探るのが、今後の課題と考えています。
- ・生活保護の事には無知でしたが、知らないとか誤解があるために、生活保護受給者への偏見などにつながっているように思います。

講演会は、くまもと・わくわく基金の助成で実施しました

会だより2016年春号③

会員の声 コーナー

「でんでん虫の会」の活動に参加されている方々の声を連載します。
あなたからの寄稿をお待ちしています。

昨年、私がボランティアに行っているイエズスの聖心病院で、船本さんと吉松さんが、でんでん虫の会について話をしてくださった時に、会の事を初めて知りました。熊本に、こんなに素晴らしい活動をしている会があるなんて！感動して、是非参加させて頂く事にしました。皆様が、温かい心で私の話を聞いて下さり、嬉しくて新しい心の居場所になってます。いい加減で適当な私ですが、どうぞこれからもよろしくお願い致します。
永田貴子（ながた たかこ）

でんでん虫の会で学んだことがあります。それは、一期一会の精神です。それまでは、出会いを粗末にしてたような気がします。人は、いつ、どこで死を迎えるのかわかりません。恩師を亡くして以来、人と親しくなることから逃げてました。それは、自分が傷つくのが怖かったからです。会に入ってから現在に至り、自分が間違っていることに気づきました。死は必ず訪れるものです。だからこそ、出会いを大切にしていかななくてはいけなかったのです。先を見すぎて、今を見れなかった自分が恥ずかしく思います。皆さんにも、この一期一会の精神だけは忘れないようにして頂けたら、と思っております。
大洲亜紀（おおす あき）

6/11（土）は会員総会

「でんでん虫の会」は、会員で構成されるNPO法人（特定非営利活動法人）です。その会員が集い、前年度の事業・決算報告を受け、新年度の事業・予算計画について話し合います。2016年度の総会は、6月11日（土）14時～あいぼーとで行います。

総会前に例年講演会を実施しています。今回は、2月の藤田さんの講演会準備や運営をになっていただいた川崎孝明先生（尚綱大学尚綱短期大学部准教授）にお願いしましたところ、快く引き受けていただきました。詳しい案内は、5月に送ります。

新しい居場所・趣味活動にチャレンジ

2015年度は、わくわく基金とグリーンコープ福祉活動組合員基金からの助成金を受けて「居場所づくり」に取り組みました。おしゃべり会や交流会を開く中で、孤立を防ぐためには「趣味活動」が大切であることが浮かび上がってきました。また、ひとり暮らしをされている方の中には生きがいを失い、ギャンブルやアルコールなどの依存症で苦しんでおられる方が多いこともわかりました。趣味活動の体験機会を通して、自分に合った新しい居場所づくりに取り組みしましょう。詳しい内容は、後日ご案内します。

会だより2016年春号④

これからの予定

3/26 お花見に行こう

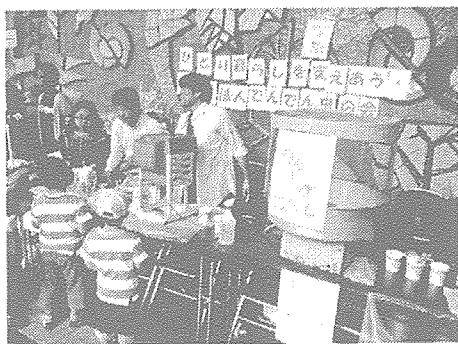
桜の開花予報が気になる季節です。熊本は3月25日とか、、、午前中は公民館でオードブルやおにぎり等を作り、昼から白川公園で花見の予定です。お知り合いの方をお誘いください。

日時：3月26日(土) 午前9:00～午後1:00

集合：中央公民館集合（白川公園内）

会費 ¥500（食事・飲物代。アルコールは用意しませんので、希望の方は自分で持参ください）

問い合わせ ☎ 山本照文 ☎070-6594-1597



4/29 メーデー出店にご協力を

労働者のつどいであるメーデーが、今年も4月29日、グランメッセで開かれます。連合熊本から参加要請がありましたので、出店協力をしたいと思います。ポップコーン？ かき氷？ 綿菓子？ 何にしましょうか？

5/14 BBQのご案内

例年5月には野外へ出かけ、BBQ（バーベキュー）を楽しみます。今年も、石神山へ出かけ、みんなでおいしい食卓を囲みましょう。

5月14日(土) ※雨天の場合は21日(土)に順延
集合10時 あいぽーと駐車場

会費500円 詳しい案内と参加受付は、おしゃべり会席上行います。 問い合わせ ☎ 山本照文 ☎070-6594-1597



新年度も皆さんと相談しながら、企画を考えていきます。

楽しい催しとなるよう、お友達をお誘いの上ご参加ください。

会だより2016年夏号①

でんでん虫の会だより 2016夏号



まだまだ余震が続きますが、、、

お花見も終わり、桜も散り、青葉が繁り、厚いコートも要らなくなって、これからいい季節を迎えると思っていた矢先、熊本にとっては史上最悪と言える震災・災害が2回起き、まだ余震がつづいています。皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

本震から一カ月が過ぎ、会員の皆さまも大変な思いの毎日と思います。安否確認の結果、幸い、会員の皆さんは、避難はされていても大怪我や入院したとの情報は無く、大変嬉しいです。でも、壊れたアパートからの引越や修理などが相次いでいます。困ったことがありましたら、遠慮なく、お電話ください。

おしゃべり会では、今

余震が続く中ですが、おしゃべり会は休まず続けています。アパートや避難場所の様子、健康状態など会員の様子をお聞きしています。

あいぽーとの建物が震災の被害を受けたので、震災直後の4月20日はウェルパルのロビー、4月27日と5月3日の2回は大江ルーテル教会をお借りして開催しました。その後の会場は現在交渉中、決まり次第電話にて連絡いたします。



(写真はルーテル教会でのおしゃべり会)

5月4日のおしゃべり会には、長野や奈良から自転車で駆け付けてくれたボランティアの方もおしゃべり会に参加されました。その一人、大工の鳥海小太郎さんはその技術を生かし、壊れかけた家の補強や修理など大きな戦力になっておられます。産経新聞の取材を受け、記事になりましたので、ご覧ください。(次ページ掲載)

会だより2016年夏号③

6/11 (土) は、語り愛会 & 会員総会

熊本地震の影響は、大なり小なりみんなの心の傷を残しています。早い段階で、こころの中に溜めたものを吐き出すことが、こころのケアにとって大切です。

市民の方にも呼び掛け、お互いに話し合う場として「語り愛会」を開くことにしました。川崎孝明先生（尚綱大学尚綱短期大学部准教授）にコーディネーターをお願いし、会場も、予定していたあいぽーとが震災のため使えませんので、尚綱大学1号館キャンパスをお借りします。（右地図参照）



また、「語り愛会」の後は、会員総会を開きます。「でんでん虫の会」は、会員で構成されるNPO法人（特定非営利活動法人）です。前年度の事業・決算報告を受け、新年度の事業・予算計画について、また、役員選出、定款変更についての大事な話し合いをしますので、ご参加ください。

5/21 BBQのご案内

例年5月には野外へ出かけ、BBQ（バーベキュー）を楽しみます。皆さんが一生懸命復興に頑張られている中、BBQをしていいのだろうかと思いましたが、こういう時こそ、会員の皆さまの笑顔に出会えたらと思い、実施することにしました。今年も、石神山へ出かけ、おいしい食卓で再会できればと願っています。参加をお待ちしています。（春号では14日と案内しましたが、地震の影響を考慮し1週間遅らせました。）



5月21日（土）集合9時半あいぽーと駐車場 ※雨天の場合は28日（土）に順延
会費500円 詳しい案内と参加受付は、おしゃべり会席上行います。

集合した時点で随時出発します。

問合せ先 山本照文 電話番号 070-6594-1597

会だより2016年秋号①

でんでん虫の会だより 2016秋号



残暑お見舞い申し上げます

2016年9月1日

最高気温 37度、38度と異常な暑さが続いた夏でしたが、皆さん、お変わりありませんか？
朝夕は少しずつ涼しくなってきました。秋の催しなどをお知らせします。

おしゃべり会の会場について

おしゃべり会の会場として毎週集まっていた「あいぼーと」が地震以来使えなくなりました。場所を転々としながら一度も休むことなく続けてきましたが、改修工事のため来年3月まで使えないとの連絡を受けました。そこで、上通りにありますYMCAを使わせていただくようお願いしたところ、9月7日（水）から利用できるようになりました。



上通 YMCA 5階（熊本市中央区上通町 5-5・メガネの大宝堂横）TEL:096-352-2344

お茶碗プロジェクト報告

熊本地震災害復興支援の為、神戸のひまわりおじさん・荒井さんの呼びかけで、お茶碗プロジェクトが立ち上がりました。全国から沢山の真新しい食器類が「でんでん虫の会」に届き、5月18日の西原村小森の仮設住宅を初回とし、西原村、益城町、南阿蘇、甲佐、城南区、美里町、合志市、菊陽町、大津町、東区役所などの避難場所や仮設住宅などへ4,986箱を届けました。6,000箱以上届いたお茶碗も残り1,000箱となりました。（8月28日現在）一人でも多くの方々に喜んで頂けたらと思い、暑い中をみんなで頑張ってきました。



（報告：兒玉廣昭さん/連日お茶碗配りに同行されました。）

今後の予定：9月10日（土）宇土市内仮設住宅 10月8日（土）託麻東小学校

会だより2016年秋号②

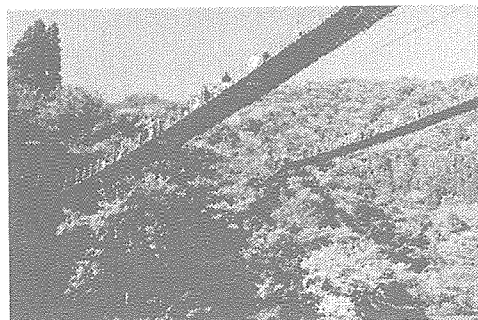
日帰り旅行のご案内

恒例の日帰り旅行の季節がやってきました。

秋の自然を探しに行きませんか？

日時 10月20日(木)集合朝9時 解散17時予定

あいぼーと駐車場



五家荘平家の里 往復レンタカー&自家用車 参加費 800円(昼食代、飲み物代)

出欠は10月18日(火)までに山本照文さんまで ☎ 080-3998-9884

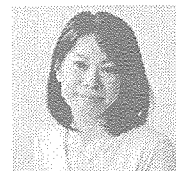
趣味講座のご案内

わくわく基金(熊本市市民公益活動支援助成金)

生活を豊かにする趣味活動のきっかけづくりです。講師をお招きし、楽しく、安く、継続できる趣味を体験してみませんか？

①ヨガ 日時 9月28日(水) 15時~16時半 会場 上通りYMCA

講師 和こころ茶ヨガ・ヨガインストラクター 小堀美穂子様



②カラオケ 日時 11月1日(火) 会場 エッフェル 水前寺3丁目33-11 講師 交渉中

今後、「料理の基礎」「スケッチ」「ウォーキング」などを予定しています。ご希望がありましたら、お知らせください。

食事交流会

前回7月30日に引き続き、食事交流会・誕生会を開きます。

10月1日(土) 10時半~14時、会場は熊本YMCA(中央区新町)

会費 500円 メニューは、おしゃべり会で相談します。



リサイクルコーナー

引越などで要らなくなった電化製品や家具、ふとんなどを倉庫で保管しています。必要なものがありましたら、また、提供したいものがありましたら、ご一報ください。布団衣類などは、未使用新品に限ります。品物によっては、引き受けできない者もありますので、ご了承ください。

会だより2016年秋号③

新しい居場所づくり

独立行政法人福祉医療機構（略称ワム）への申請（2014年度に続き2回目）をしましたところ、8月24日付で693万5千円の助成が決定しました。内容は、①熊本地震被災者支援、②交流と居場所づくり、③セーフティネットサービスの実施、④伴走型支援士の養成、⑤医療・福祉・生活支援団体による連携委員会の開催です。新たな居場所の確保、富山型デイサービスの視察、スタッフの採用など、「でんでん虫の会」が持続可能な活動が続けられるよう計画に従って進めていきます。

新しいスタッフ紹介

大洲亜紀・おおすあき：未熟ではありますが、会員の皆様と共に頑張らせて頂きます。女性スタッフも増えたので、今までと違った華やかな雰囲気になっていくかと思えます。

谷川優紀・たにがわゆき：でんでん虫の会でお手伝いさせて頂くことになりました。熊本学園大学2年生で社会福祉を学んでいます。至らない点もあると思いますがよろしくお願ひします。

永田貴子・ながたかこ：私の力は皆さんの輝く笑顔とくじけない姿勢のおかげで倍増！感謝です。共に歩み支え合う一員になれることを願っています。

坂東喜子・ばんどうよしこ：会計担当としてスタッフに加わりました坂東です。ソーシャルビジネスの分野で起業を目指しています。よろしくお願ひします。

富山型デイサービス視察について

2014年3月にデイサービス「にぎやか」の阪井由佳子さんを富山から迎えて、「親子じゃないけど家族です」講演会を実施しました。これからの居場所づくりを考える時、高齢者や障がい者、ひとり暮らしの若者、子育てのお母さんなど、「だれでんかれでん」集うことのできる場所のモデルが富山にあります。9月下旬に視察し、そこで学んだことを新しい居場所づくりに生かしたいと思えます。



高齢者や障害者が、死ぬまで尊厳を失うことなく、在宅で暮らせるよう応援します。

ほみやいまちを目指します。

次世代の子どもたちに思い・生きることを伝えます。

by 理事長 阪井由佳子

会だより2016年冬号①

でんでん虫の会だより 2016冬号



2016年11月1日

おしゃべりカフェ（益城テクノ）に ご参加ください

熊本地震で家を失った益城町の人々のために熊本空港そばのテクノパークに作られた大型仮設団地では500世帯が生活されています。新しい環境の中で孤立されないよう、毎週火曜日の午前10時～午後3時までおしゃべりカフェが開かれています。「でんでん虫の会」の会員も毎週参加していますので、ご一緒いただける方は事務局へご連絡ください。

9月25日・26日富山視察

尚綱大学の川崎孝明先生とでんでん虫の会スタッフ永田、谷川、山本(大)との4名で富山へ視察に行ってきました。「富山型デイサービス」と言う富山県の福祉施設の中から「にぎやか」「しおんの家」を2カ所視察しました。どちらの施設も子供からお年寄りまで、地域の人が「だれでんかれでん」、それぞれの時間を楽しめる居場所となっていました。でんでん虫の会も会員の方をはじめとした地域の人たちが集まれる居場所を作りたいと考えています。富山で見た事聞いた事を参考に、今後の居場所づくりに活かしていこうと思っています。

9月28日、ヨガを体験

あいぼ一とが地震で使えなくなったので、おしゃべり会は9月より上通YMCAをお借りしています。三十人も入ると窮屈ですが、9月28日は、和こころ茶ヨガインストラクターの小堀美穂子さんから椅子に座ったままのヨガを学びました。いつでんどこでできるヨガを通して呼吸の大切さを知り、身も心もすっきりしました。



会だより2016年冬号②

10月1日の食事交流会では

中央 YMCA にて実施した食事交流会のメニューは、酢豚、五目ごはん、お吸い物でした。18名の参加者が協力し合っておいしい食事を作り、おしゃべりしながらの楽しい時間を過ごしました。



10月18日にお茶碗プロジェクト終了



5月28日から始まったお茶碗プロジェクトは、全国から寄せられた6,500箱がひとつ残らず10月18日で無事終了しました。写真は、城南町の藤山仮設団地、2トトラックにたくさんの笑顔が集まりました。主催者の「ひまわりの夢企画」では、お礼状を送られるにあたり、書き損じはがきを集めておられます。ご自宅にありましたら、「でんでん虫の会」へお送りください。

10月20日、日帰り旅行へ行ってきました

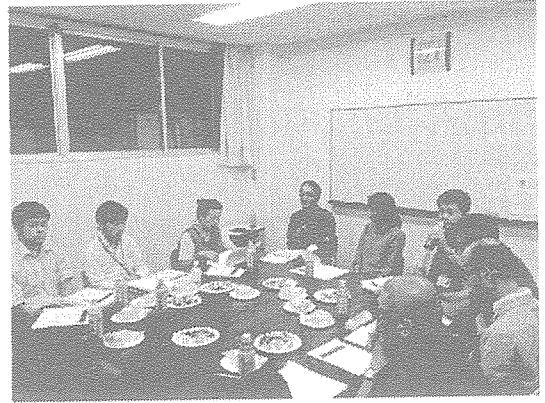
毎年恒例となっております秋の日帰り旅行、今年は「五家荘」でした。参加者は23名と多くの方に参加頂きました。色々なハブニングもありましたが、五家荘の山頂「二本杉」にて豪華なお弁当に舌鼓を打ったり、吊り橋を渡ったり、車中で秋に移ろいつつある山の景色を楽しみ、皆さんに喜んで頂きました。来年は、どこに行こうかな?皆さんからの提案をお待ちしています。



会だより2016年冬号③

新たな居場所づくり委員会

でんでん虫の会では、「だれでんかれでん」集まれるおしゃべり会を毎週開いていますが、「いつでんどこでん」集まれる「新たな居場所」を作りたいと願っています。被災者の支援、生活困窮者の支援、地域減災の支援、障がい者の支援、高齢者の支援、子どもの支援、地域福祉の支援などに携わっておられる方々に集まっていただき、新たな居場所を考える委員会を9月21日、10月18日に中央YMCAで開きました。三回目の11月1日には、2月の講演会などについて話し合い、内容が決まり次第皆さんにご案内します。



これからの予定・お知らせ

11月1日はカラオケ練習

趣味活動として人気の高いカラオケ、もっとうまく歌えるようになって忘年会に備えようと、カラオケ練習会を開きます。歌うのは苦手だけど聞き上手のあなたもご参加ください。

日時 11月1日(火)14:00～17:00

場所 カラオケステージエッフェル水前寺店

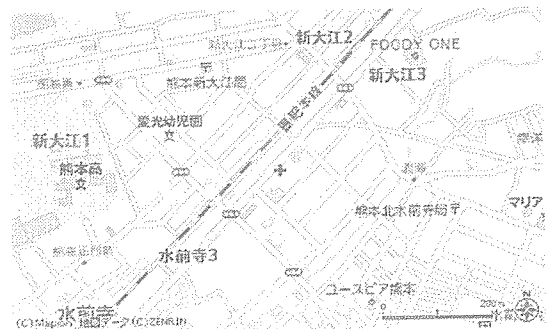
中央区水前寺3丁目33-6 TEL096-381-8383

※現地集合、場所がわからない方はあいぽーと駐車場に13:30までに集合ください。

講師 岩松先生 エッフェル水前寺店店長

参加費 700円 ※飲食に関しては持ち込み可能ですので、各自ご持参下さい。

申込は、10月末日までに、山本照文さん 080-3998-9884へ



会だより2016年冬号④

11月7日～ おしゃべりサロン、小山町で開始

小山町でおしゃべりサロン（無料）が始まります。カフェや昼食（有料）なども予定されていますので、お近くの方はご参加ください。

日程：11月7日～ 毎週月・木 10時～15時半 会場：よしむた総合診療所

詳しくは、主催者の山川李代子さんへお問い合わせください。090-2399-5955

11月23日のおしゃべり会は

会場の上通YMCAが休館のため、近くの喫茶店でおしゃべり会をします。

時間は14時～15時半、喫茶店の場所は当日、YMCAの玄関に掲示します。

12月14日は絵手紙づくり

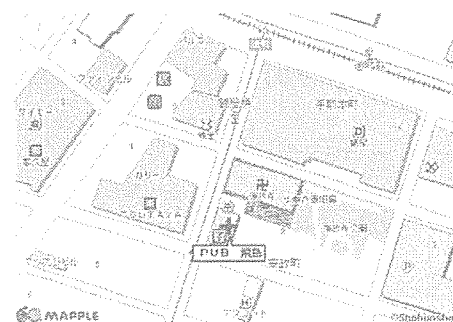
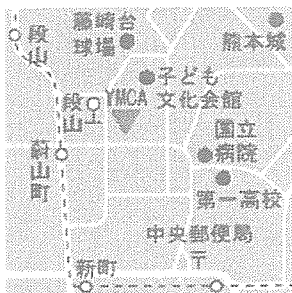
年賀状の季節がやってきました。今年は、絵手紙にチャレンジしてみませんか？

講師：大和武史先生（絵手紙講師） 参加費100円（材料費）

会場：上通りYMCA 15時～16時

忘年会&新年会のご案内

忘年会 12月3日（土）午後3時～5時まで、^{かご}駕町通りのPUB飛鳥（あすか）☎322-6800でカラオケを楽しみます。会費2000円（会場費、スナックと飲み物代）。



新年会 1月7日（土）午前10時～2時まで、新町の中央YMCA調理実習室をお借りし、みんなで料理を楽しみます。会費は500円（食材費）です。準備の都合上、それぞれ実施の1週間前までに出席のご連絡をください。

会だより2016年冬号⑤

12月21日・22日の伴走型支援市民ボランティア養成講座

6ヶ月前に発生した熊本地震は、家だけでなく地域の人々とのつながりも奪いました。生活に困窮を感じる方や、精神的な病いがひどくなった方も増えました。そうした方々のそばに寄り添い、問題の解決に向けた伴走型支援をめざす市民ボランティアを養成するための講座を開きます。日程は、12月21日（水）22日（木）の2日間、会場は中央YMCAの予定です。詳しい内容が決まり次第ご案内しますので、しばらくお待ちください。

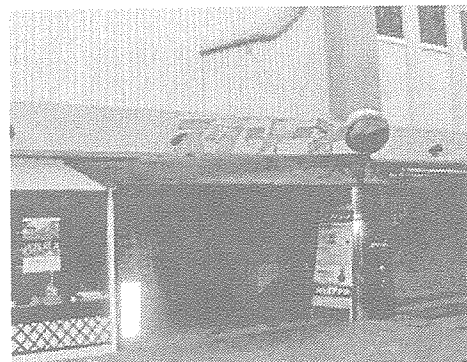
1月27日はボウリングを楽しもう！

寒い冬のスポーツは、ボウリング、一緒に汗を流しましょう。プロのボウラーによるレッスンがあります。

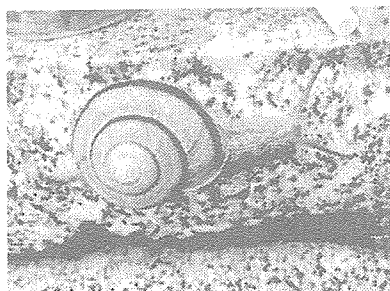
14時～16時 水前寺スターレーン 水前寺公園内
(096)383-0195

参加費 700円（2ゲーム、レンタルシューズ代）

参加希望者は、11月末までにお申し込みください。



スタッフの山本大智さん、よろしくお願いします。



熊本学園大学院生の山本大智（だいち）です。地域交流を主に担当させていただきます。益城町テクノ仮設で行われてる「おしゃべりカフェ」へ毎週通っています。ご参加できる方がおられましたら車で一緒に行きますので、よろしくお願い致します。

2016年(平成28年)5月24日 火曜日

神戸新聞(夕刊)

お茶わんで熊本支援

新たな食器被災者に届けたい

熊本地震の被災地支援に向け、神戸市垂水区のNPO「ひまわりの夢企画」が、阪神・淡路大震災の経験を生かし、被災者に届ける未使用の食器を募っている。現地では、地震前から阪神・淡路の教訓を学んできたNPO法人が受け入れ先として協力し、被災者の生活再建を後押しする。
(高田康夫)



熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」に届けられた食器類。熊本市中央区九品寺3

阪神・淡路の経験基に 神戸のNPO協力

ひまわりの夢企画の代表(70)は阪神・淡路の際に食器が割れて苦労した経験から、2004年の新築県中越地震以降、「お茶わんプロジェクト」として被災者に食器を配ってきた。協力するのは熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」。一人暮らしの高齢者や障害者を支援してきた。地震前から、元神戸市職員で熊本県立大教授だった明石昭久さん(65)を講師に「一人暮らしの防災」として阪神・淡路の教訓などを学んでいた。

熊本地震で自宅に住めなくなった高齢者も多いが、定期的に飯を合わせてきた経験を生かし、避難所でも助け合ってきた。法人事務所には、全国から200箱以上の食器が届いており、被災者宅へ入る

に合わせ被災者宅に食器を無償提供した。避難所では仮設住宅などへの入居に向け、必要な食器を届ける。7月10日まで、



必要な食器を選ぶ避難者ら。7日、熊本市南区

避難者に食器提供

熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」が、神戸市垂水区の避難所を回り、被災者に食器を提供している。食器は、被災者の生活再建を後押しする。7月10日まで、

熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」が、被災者に食器を提供している。食器は、被災者の生活再建を後押しする。7月10日まで、

2016 6/8 A 朝日

「熊本にお茶わんを」

神戸のNPOが募る

「熊本地震の被災地にお茶わんを送ろう」と神戸市のNPO法人「ひまわりの夢企画」が全国に呼びかけている。名付けて「お茶わんプロジェクト」。被災者が仮設住宅に入居する際に食器類を無料で配る。発案者の荒井勲さん(70)は「食器棚の隅に眠っている未使用の食器があれば協力してほしい」と募っている。

企画は6回目。1回目は2004年、新潟県中越地震の時に、荒井さんは阪神



宮城県南三陸町の仮設住宅で開かれた「無料食器市」。2011年7月、荒井勲さん提供

大震災の支援の際、仮設住宅の入居者が「紙皿でなくお茶わんでご飯を食べたい」と話していたことを思い出して始めた。東日本大

震災では約5千箱の食器類を仮設住宅の入居に合わせ配った。

今回は、熊本のNPO法人の協力を得た。仮設住宅の入居の際、現地で「無料食器市」を開き、好きな食器を持っていくつもりで予定だ。「震度もぐらいいなると多くの食器が壊れる。食器を手にするのは小さな

幸せだが、それを届けられたい」と荒井さんは語る。募っているのは、未使用の食器類。段ボールに食器の種類と数を記入し、割れないように包装して送ってほしいという。送り先は、〒862・0

976 熊本市中央区九品寺3の3の28 NPO法人でん生会の「お茶わんプロジェクト」係。7月10日まで、問い合わせは、夢企画(078・787・7387)。(編集委員・大久保貴紀)

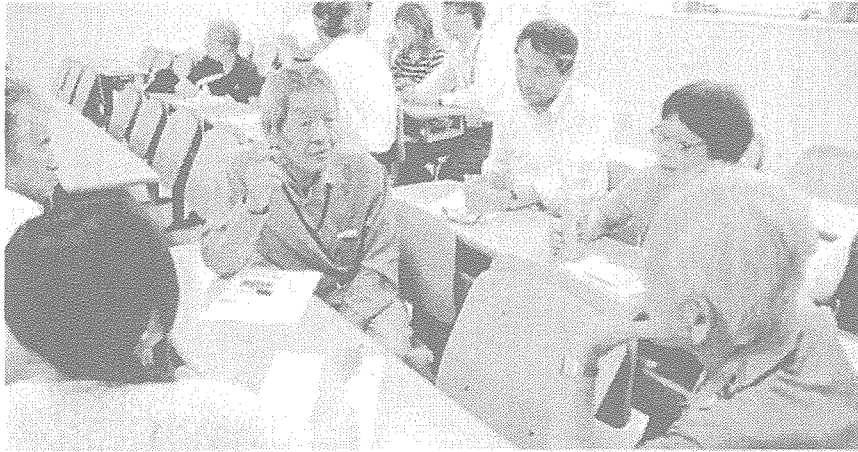
困難打ち明け 心軽く

地震体験語り合う

熊本市 20〜70代の50人

NPO企画

熊本地震の体験を語り合う参加者ら
＝熊本市中央区



熊本地震の体験を語り合う「語り愛会」が11日、熊本市中央区の尚綱大丸館等キャンパスであり、熊本市内の20〜70代の約50人が地震後の困難や不安、支援への感謝の思いを打ち明けた。

一人暮らしの高齢者の居場所づくりに取り組みNPO法人「でんでん虫の会」（熊本満幸代表）が心のケアにつなげようと企画。尚綱短大の川崎孝明准教授（社会福祉学）と学生らが協力した。

参加者は4〜6人のグループに分かれ、「被災後どんな生活を送ったか」「避難生活で困ったこと」などをテーマに語り合った。

「食料がない生活が続き、避難所に行ったのは2〜3日後だった」と被災直後を振り返る人や、「生活を立て直すことも大事だが、心を休める時間も必要だと感じた」と心情を吐露する人も「多くの支援を受け、人の親切さが身に染みた」と感謝の雨も上がった。

熊本市東区の中島久米子さん（79）は「普段と違う場を思いを打ち明け合うと、「よし頑張ろう」という気になります」と話していた。

（高橋俊啓）

【熊本日新聞 平成28年6月12日（日）掲載】



「茶碗でご飯」幸せ届けたい

益城の被災者へ全国から食器

益城町宮園の集会所で24日、神戸市のNPO法人「ひまわりの夢企画」が被災者に無料で食器を配った。一連の地震後、新聞を通じて全国に呼びかけ、市民や業者などから約3千箱の食器が集まったという。

2004年の新潟県中越地震後、NPOが始めた。荒井勲代表(70)は「茶わんでご飯を食べるのは日常に戻ると第一歩。心を落ち着かせてほしい」と話す。

この日は、食器を集める場所になっていた兵庫県立舞子高校の環境防災科の生徒40人が被災者に代わって

食器を自宅に運ぶなどして手伝った。1年の白鷺敬太さんは「4歳の時、台風で被災して助けてもらった。役に立ててうれしい」。

近くの権藤美穂さん(39)は食器を手にし、笑顔を見せた。自宅は全壊で、昨年、2歳になった長女に買った茶わんなど食器はほとんど割れた。両親と夫、子供ら8人で避難所に。食器は数が限られ、紙皿で食べることもある。「避難所に戻ったら、家族で茶わんを並べて白いご飯を食べたい」

(板倉大地、写真ほ金子博)

【 朝日新聞 平成28年6月25日(土)掲載 】

共に生きて

一人暮らしの人が会館となり、何でんかんでん、いつでんどこでん、誰でん彼でん相談し、支え合っているNPO法人「でんでん虫の会」の事務局長です。

6年前に発見し、会館は約200人。週1回のおしやり会などで顔の見える関係をつくってきました。買い物や病院に付き添ったり、ごみ出しや庭の手入れを手伝ったり、亡くなった後に遺品整理することもあります。支援してもらっているのではなく、自分ができることをして誰かの役に立つ「元気と仕事を分かち合っています」。

そのおかげで、熊本地震でも「ごさんは又避難所にいる」と情報が飛び交い、前編(4月14日)の翌日にはほとんどの会員の安否を確認できました。会館には20、30代もいますが、災害に弱いのは、やはり高齢者です。転倒を茶飯なくされ

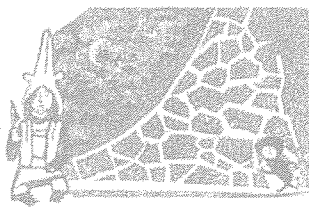


熊本発
高野 裕子

⑨一人暮らしの高齢者

共助団体系事務局長 吉松 裕蔵さん(熊本市)

「つながり」あればこそ



(絵・千文カゼパンチ)

だが物件が見つからない、保証人がいないなどの相談があり、でんでん虫の会が約20人の身元引受人になりました。以前から協力してくれている地域の不動産業者のおかげで、引っ越し先も見つけられました。でも、元の暮らしを取り戻すのはこれからです。

生活保護を受けるごさん(68)は、自宅アパートが取り壊されることになり、6月下旬に転居先が決まりました。しかし避難所から荷物を取りに戻ると、何の連絡もなくアパートの解体が

進んでおり、茶碗一つ持ち出せませんでした。

他の会員が使わなくなった家電や支援物資などを集め、何とか新生活を始めることができました。

地震への対応は落ち着いてきましたが、今日も3件の電話がありました。あるゲアマネジャーからは「80代男性が病院から有料老人ホームに移るので緊急連絡先になってもらえないか」といった支援要請は毎日あります。

今回の地震であらためて「つながり」の大切さを再認識しました。困ったときのお互いさまの関わりは短期間で続きます。私はいつも「ボタンへ火葬の着火装置」を押すまで」と言います。私が押してもらおうとさもなくば、誰かとながれる場所が、地域のあちこちにできればいいなと思っています。

(聞き手・山田貴代)

【西日本新聞 平成28年7月14日(木)掲載】

生活関連情報

掲載情報は、個別の事情などで変更になる場合があります。

食器も新たに再出発しよう!!

天草地域の住民を支援するボランティアグループが、17日に益城町で開かれる朝市「まじきメッセもやい市」を訪れ、熊本地震の被災者に特製の天草陶磁器を格安で販売する。

天草市や茶臼町の住民らが被災地支援を目的に結成した「まじき」(食を助成代表)。「これまで被災地へ支援物資を届けたり、壊れた家屋の復旧付けを手伝ったりしてきた。

今回の活動は、被災者が新たに生活を始めるために必要な食器類を、できるだけ安く提供しようと計画した。茶臼町の繁元・内田山山崎が茶臼人や湯敷み、熊本JOMO点を原産地提供、「まじき」が募った寄付金で買い上げた。「まじき」のメンバーたち

住民グループが 天草陶磁器を格安販売

益城町の朝市で



被災地で天草陶磁器を格安販売するボランティアグループ「まじき」のメンバーたち(茶臼町)

は17日、内田山山崎に集まり商品をチェック。車に積み込んで、「まじき」の会場で運び込んだ。メンバーたちは「小さな個人の善意を集めて大きな支援につなげたい」と、今後も現地のニーズに応じた支援を続ける。(取材直売)

熊本市のNPO 全国から募り無料配布

東区役所駐車場

一人暮らしの高齢者を支援する熊本市のNPO法人「アース」の会「が17日、熊本市東区の東区役所駐車場で、熊本地震の被災者に陶器や漆器、グラスなどを提供する「無料直売市」を開催。熊本市の市民団体「ひまわり」の募金で、全国の被災地で展開する「ひまわりプロジェクト」の一環、熊本地震では同NPOが全国から食器の提供を募るなどしてきた。

食器の配布は、これまで熊本市や湯敷町、田代町などでも取り進んだ。同NPOの副代表理事兼部長のひまわり「被災地にも支援する人、飲食店にも支援する人も多く、新しい食器で心機一新してほしい」と話している。

食器はすべて無料配布。午前10時から午後5時まで。(取材直売)

平成28年(2016年)8月19日 金曜日 熊本日日新聞

被災者 尽きぬ不安

県内避難所相次ぐ閉鎖

「苦境 乗り越えたい」

熊本地震の発生から4カ月が過ぎ、県内で避難所の閉鎖が続いている。益城町では18日、小学校の避難所3カ所が閉鎖され、計約80人が別の避難所や自宅、仮設住宅へ移った。避難者は苦勞を共にした人々への感謝と今後の不安を胸に、新たな生活へと歩き出した。



閉鎖されることになった広安西小の避難所閉鎖式で、約4カ月を振り返り、別れを惜しむ避難者たち＝18日、益城町

【1面参照】

広安西小では朝から片付けが続き、夕方には体育館は空っぽ。7人で避難する大塚康二(明所式)は、避難者ら約30人が町職員やボランティアに寄せ書きを渡して感謝を伝えている。避難生活は続くが、今後「一人一人が立ち上がり、互いに支え合えるような生活が実現することを願っている」と話す。

生活再建へ公的支援を

行政が設置した避難所では、被災者は食料や寝具の確保が困難な場合、その避難所を出て新たな生活を始めるには、いくつかの壁がある。と尚綱大短期大学の川崎准教授(社会福祉学)は言う。「地震で家財道具を失った上、生活費や住居が確保できず、避難所を出ても行き場のない人もいます。これは大きな壁です」。

ハードルの一つが住宅を借りる際の保証人。身元がいない人、家族や親戚との関係が切れている人の場合、見つかるのは困難だ。生活再建支援センター(NPO法人「でんでん虫の会」(熊本市)は地震後、同会が保証人や

尚綱大の川崎准教授

生活費、住居…「壁」に

身元引受人になることで賃貸契約を結び、住宅確保の手助けをしてきた。その数は約30人。車中泊や野宿同然の生活が当たり前な人もいたという。新しい住まいが決まり、家財道具をアパートに取りに行ったら取り壊されておりました。すべてを失ったケースもあった。困窮ハートは「はさまさず」と同会の吉松裕敏事務局長。川崎准教授は「被災者や困窮者の支援は公的機関が担うべき」と強調。「一部の社会福祉協議会が法人成年後見人に取り組んでいるように、公的団体を後援して生活再建を支援する仕組みが急務だ」と指摘している。(熊本成人)

「これからは張りましょう」という女性の言葉に、涙ぐむ人もいた。

益城中央小でも、避難者ら約10人が最後の一人一人の生活再建のめざす目標を立て、支援を続けていきたい。同町は「一人一人が立ち上がり、互いに支え合えるような生活が実現することを願っている」と話す。

一部損壊のアパートに収まる宮永真宏さんは「9月15日に全避難所(計)益城町益城は、子どもたちは家の倒壊を怖がっていた。市でも毎日現在、市営の避難所で暮らすこと、合体育館(中央区)に考えるかもしれない」と不安をにじませ、35世帯に住居が見つかった。井手文雄校長(59)は「被災者や困窮者の支援は公的機関が担うべき」と強調。「一部の社会福祉協議会が法人成年後見人に取り組んでいるように、公的団体を後援して生活再建を支援する仕組みが急務だ」と指摘している。(熊本成人)



熊本 登

最大震度7を記録した4月の熊本地震。災害時に特に配慮が必要と思われる人たちに、体験やそこから感じた課題について語ってもらったこの連載も、最終回となりました。皆さんに「その後」を尋ねました。

初回に登場した在宅医療児・者の訪問診療に携わる緒万健一医師(60)は熊本市を、7カ月ぶりに再訪しました。

医療機器に命を預けている在宅医療児・者にとって、避難には救急車が必要ですが、地震直後、119番がつかがりませんでした。携帯電話用の回線に通報が殺到したため、市消防局に携帯電話用の回線を増やすよう要請しました。

しかし、いくらシステムをつくっても「システムを壊すのが震災」と緒万さんは実感します。担当する患者の半数近くは身動きが取れないところを、地域の人に助けてもらったそうです。日頃地域の人たちと交流し「あの家に手助けが必要な人が住んでいる」と知ってもらうことが、命を守ると患者に伝えています。

一人暮らしを支え合う活動をしているNPO法人「でんでん虫の会」の百松裕蔵事務局長(67)は、民間住宅を借り上げる「みなし仮設」での高齢者の孤立を懸念しています。地震から日がたち、それぞれが新しい場所で新しい生活を始

「災害弱者」にしない社会を

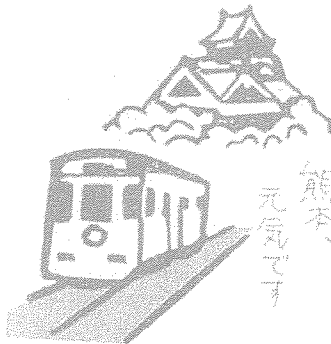
めています。特にみなし仮設は各地に点在し、地域とのつながりを失いかちです。「支援したくても個人情報保護が壁となり、把握が難しい」と言います。

熊本県助産師会では、同市内で母子向けの癒やしサロンを不定期で開いています。家事や育児、仕事に追われ、当時の恐怖を吐き出せないままストレスをためる産婦が多いからです。

地震のショックや避難生活のストレスはいまだに尾を引き、産婦だけでなく、精神疾患や認知症の悪化なども見られ、回復に時間がかかっています。

紹介した事例からは、アレルギー・食の備蓄や福祉避難所の認知度向上など、すぐに取り組めそうな課題も、避難所運営の体制など長期的に考えるべき課題も見えました。

難病の患者団体代表は「特別な配慮が必要ない『普通の人』は案外少ない」と語りました。「あの日から」明らかになったさまざまな教訓を生かし、支援が必要なる人を「災害弱者」にしない社会をこれからも考えていきます。



熊本、元居です 絵・キタカセパンチ

【 熊本日日新聞 平成28年8月19日(金)掲載 】



「伴走型支援」について学んだ市民ボランティア養成講座
熊本市中央区

生活困窮者に 伴走型支援を 熊本市で市民講座

生活困窮者に寄り添いながら生活再建に取り組む「伴走型支援」について学ぶ市民ボランティア養成講座が、21の同日、熊本市中央区の熊本中央YMCAであり、介護職や被災者支援団体などの20人が受講した。

高齢者の居場所づくりなどに取り組むNPO法人「でんでん虫の会」(同市)が主催した。

た。

21日は、北九州市立大の稲月正教授(社会学)が伴走型支援の概要について講義。稲月教授は「困窮は経済的要因だけでなく、社会的孤立が重なって起きると指摘し、支援される人の生きる意欲を引き出し、支援制度や地域の人たちについていくことが大切」と話した。

このほか、生活再建の具体的なプランを作成する実習などがあった。(熊本成人)

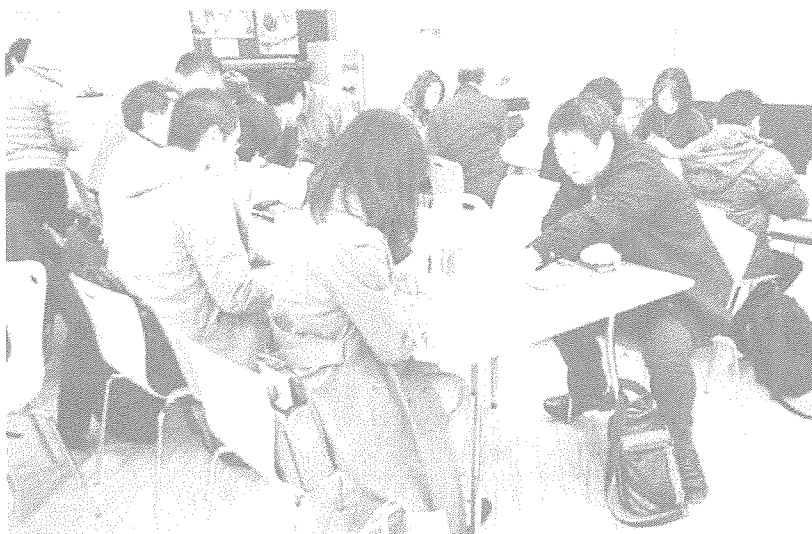
【 熊本日日新聞 平成28年12月24日(土)掲載 】

熊本市

総菜店運営や地域通貨…

「居場所づくり」実例学ぶ

地域通貨についての実習に取り組む学習会の参加者
11日、熊本市中心区



子どもやお年寄りなど地域の人々の居場所づくりを学ぶ学習会が、11日、熊本市中心区の「でんでん虫の会」が主催し、大阪府のNPO法人が、住民の意思を尊重しながら地域通貨を流通させたり総菜店を開いたりした実績を紹介して、地域の面白い人の力を生かして」と呼び掛

見をもちに居場所となる広場や事務所を整備して、住民自ら居酒屋や総菜店、子育てカフェなどを運営していることを説明。「子ども

子どもやお年寄りなど地域の人々の居場所づくりを学ぶ学習会が、11日、熊本市中心区の「でんでん虫の会」が主催し、大阪府のNPO法人が、住民の意思を尊重しながら地域通貨を流通させたり総菜店を開いたりした実績を紹介して、地域の面白い人の力を生かして」と呼び掛

【 熊本日日新聞 平成29年2月12日(土)掲載 】

新リーフレット(表)

でんでん虫の会とは？

2010年春、ひとり暮らしの方が亡くなられて2か月後に発見されるという悲しい出来事がきっかけになり、訪問や電話相談などを始めました。

ひとり暮らしの会員同士がお互いに支えあうことを目指して、交流活動を中心としながら、相談と生活の支援をしています。

名前の由来である「なんでん・かんでん、いつでん・どこでん、だれでん・かれでん」を、心がけています。

ひとり暮らしの方の声

一番楽しかったのは病院にいたときね。4人部屋だったんだよ、一人かいるんが面白い話をしてくれてね、今でも自殺を考えたことがあるんだよ。「人でのいると、その時は楽しかったよ、いろいろなことを考えて、母が死んだらどうしようとか、いろいろ不安になって、

うつ病の時は薬を多量に飲んで、そういうことをしましたよ。あ、今はおかげで生きてるのだから(笑)。

やっぱりなあ。スーパーのお惣菜やほか弁とか、買いに行くけどおいしくない。もうつくってあって冷えているもんね。

昔はね救保組でよく隣同士でこう付き合ってたことかねえ。今は駅にいても極端に言えば人が死んでたっつて分らないような事もあるだろうしね。

一人暮らしで心配なのは健康ですね。見てくれる人がおらんけん。家族がいたら、喉をしたら、風邪やない？病院行ったら？って心配してくれりやない？それが無い。

ささえ愛の活動内容

- * おしゃべり会 (毎週水曜日午後2時～あいぽーと)
- * 病気の方の見舞いや通院同行
- * 入院や手術手続きの代行
- * アパート入居の際の不動産紹介 (身元引受人)
- * アパート入居者同士の交流
- * 逝去後の諸整理とお見送り
- * アパート清掃や駐車場草取り (退去後、定期清掃)
- * 生活費・物資調達のお手伝い
- * 生活保護申請同行
- * 行政・医療機関・他の支援団体との連絡・連携
- * ワンコインサービス
- * セーフティネットサービス
- * 被災者支援活動
- * 減災・自殺予防のための学び会

あなたも会員になりませんか？

「でんでん虫の会」は、お互いに支えあうことを願う団体で、その趣旨に賛同される会員を募集中です。あなたのご支援とご参加をお待ちしています。

正会員	1口	500円 (年額、年度単位)
賛助会員・個人	1口	1,000円 (同上)
賛助会員・法人	1口	10,000円 (同上)
払込口座	ゆうちょ銀行	
	記号 171160	番号 24668761
	トクヒ)	デンデンムシノカイ
	※ゆうちょATMからは振込料がかかります	
	肥後銀行	支店名：味噌天神支店 (157)
	口座	普通口座 1518278
	名義	NPO法人でんでん虫の会
	代表	船本 (ふなもと) 清幸 (おつゆき)



ひとり暮らしを支えあう
NPO法人でんでん虫の会
(096) 297-8116

〒862-0976 熊本市中央区九品寺 3-3-26 (相談支援センター)

info @ dendens4.org http://dendens4.org

facebook 「NPO 法人でんでん虫の会」

ひとりじゃないよ



山和助成社 社会福祉振興助成事業



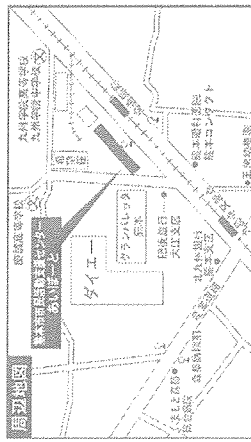
ひとり暮らしを支えあう NPO法人でんでん虫の会

新リーフレット(裏)

おしゃべり会へどうぞ

「でんでん虫の会」では、毎週水曜日におしゃべり会を行っています。時間は午後2時から5時まで、会場は、市民活動支援センターあいぼーとです(下の地図をご覧ください)。

ひとりですばしい気持ちを抱えておられる方、障がいを抱えておられる方、生活に困っておられる方など、毎回20～30名程度の老若男女が揃います。お茶を飲みながら自由に語り合いゲームを楽しんだり、災害の時にはどうするかなど話し合いをしながら顔の見える関係を作り、困ったことが起きた時には、「おたがいさま」で助け合います。



さらに交流を深めるために

ひとりで食事をするとおおいくない、部屋にひきこもってしまい外出することがおっくうだ、時間はあるけど趣味もないのでついついギャンブルに走ってしまう、さびしさからついお酒がやめられない、、、など、悩みを抱えておられる方が大勢おられます。

「でんでん虫の会」では、年に数回、お誕生会で食事を一緒に作ったり、バーベキューやバスハイク、忘年会・新年会などを楽しみながら交流を深めます。



学びのとき

12月22日、23日の二日間、熊本中央YMCA ジェーンズホールにて、伴走型支援市民ボランティア講座を開催しました。

21名の方が参加され、6名の講師により伴走型支援や就労支援、女性支援、家計再生支援などについて学びました。

認定NPO法人抱擁の理事長・興田知志さんによると伴走型支援とは、寄り添いながら家族のように様々な支援団体や行政、または病院などに『繋ぎ』、さらに『戻して、他に繋ぐ』支援と他に様々な事例と共に紹介されました。私たちの支援も一人お一人に寄り添い、その人に合わせた支援に心がけています。



「でんでん虫の会」では、おひとり暮らしの方が住みなれた熊本で安心して暮らすことができますよう、お互いに支えあう仕組みをつくり出します。福祉制度などにはないサービスを作り出すのは、会員一人ひとりのお困りごとと、それを解決に結び付けるための工夫です。会員の皆さんからのアイデアによって、さまざまな活動内容は考えられています。

この報告書に関わった人たち

発行責任者

船本 満幸 (NPO法人でんでん虫の会 代表)

監修

吉松 裕藏 (NPO法人でんでん虫の会 事務局長)

編集・調整

山口 由弘 (NPO法人でんでん虫の会 事務局スタッフ)

コーディネーター

高林 高明 (熊本学園大学社会福祉学部社会福祉学科 教授)

川崎 孝明 (尚絅大学短大学部 准教授・尚絅ボランティア支援センター長)

各事業に協力いただき、ありがとうございました！

◇熊本地震被災者支援

荒井 勳 (ひまわりおじさん・NPO法人ひまわりの夢企画 代表)

◇交流と居場所づくり

阪井 由佳子 (富山型デイサービスにぎやか 理事長)

◇伴走型支援市民ボランティアの養成

奥田 知志 (NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク 理事長)

◇事業報告会特別講演

松村 幸祐子 (特定非営利活動法人暮らしづくりネットワーク北芝)

報告・感想など (NPO法人でんでん虫の会事務局スタッフ) 五十音順

大洲 亜紀

谷川 優紀

永田 貴子

坂東 喜子

山口 由弘

山本 大智

山本 照文

吉松 裕藏



成道寺

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



NPO 法人

でんでん虫の会

NPO法人でんでん虫の会

(事務局) 〒862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺6-11-17

(相談支援センター) 〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺3-3-26

電話:096-297-8116

<http://denden64.org>

info@denden64.org

Facebook:<https://www.facebook.com/Denden64/>